

大阪大学大学院  
人間科学研究科

# 学生便覧

平成 29 年度

# 平成29年度 人間科学部・人間科学研究科 学年暦（行事予定）

年	月	日	曜日	学期	事 項	
29	4	3	月	春 学 期	入学式	
		4	火		学部新入生履修指導	
		5	水		学部2・3・4年次生履修指導、大学院生履修指導	
		10	月		春学期授業開始	
		14	金		課程博士論文題目届提出期限（16時）	
		中旬				春学期開講（ターム科目）、夏学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、 通年開講、夏季集中講義開講の授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。】
		25	火		大学院研究計画書提出期限（16時）	
		下旬				春学期開講（ターム科目）、春・夏学期開講（セメスター科目）、通年開講の授業科目履修登録 取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】
	5	29	土	夏 学 期	いちよう祭準備（4月29日） いちよう祭（4月30日～5月1日） 大阪大学記念日（5月1日） 授業休業日（5月2日） いちよう祭後片付け（5月2日）	
		2	火			
		11	木		課程博士論文提出期限（16時）	
	6	9	金	夏 学 期	春学期授業終了	
		12	月		夏学期授業開始	
		下旬			夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】	
	8	下旬		夏 学 期	夏学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】	
		上旬			夏季集中講義開講の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】	
		7	月		夏学期授業終了	
	9	8	火	夏 学 期	} 夏季休業（集中講義Aゾーン：8月28日～9月 1日） （集中講義Bゾーン：9月 4日～9月 8日） （集中講義Cゾーン：9月11日～9月15日）	
		30	土			
		中旬				
	10	2	月	秋 学 期	秋学期授業開始	
		中旬			秋学期開講（ターム科目）、冬学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の各 授業科目履修登録申請期限（Web入力） 【履修登録申請期限は別途掲示等により通知します。】	
		下旬			秋学期開講（ターム科目）、秋・冬学期開講（セメスター科目）の授業科目履修登録取消期間 （Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】	
		2	木		大学祭準備（11月2日） 授業休業日（11月2日、11月6日）	
6		月	大学祭（11月3日～11月5日） 大学祭後片づけ（11月6日）			
24		金	卒業論文・修士論文・課程博士論文題目届提出期限（16時）			
28		火	冬学期授業開始 （ただし、11月30日及び12月1日、4日、7日は秋学期の授業を実施）			
7		木	秋学期授業終了 （ただし、11月28日、29日及び12月5日、6日は冬学期の授業の授業を実施）			
11	中旬		冬 学 期	冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録変更期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】		
	15	金		課程博士論文提出期限（16時）		
	下旬			冬学期開講（ターム科目）の授業科目履修登録取消期間（Web入力） 【履修登録取消期間は別途掲示等により通知します。】		
	27	水		} 冬季休業		
30	3	水	冬 学 期	卒業論文・修士論文提出期限（16時）		
	10	水		卒業論文・修士論文考査（学科目及び学系により日程が異なる）		
	上旬			卒業論文・修士論文考査（学科目及び学系により日程が異なる）		
	9	金		冬学期授業終了		
	13	火		大学院研究概要報告書提出期限（16時）		
3	下旬		卒業式・学位記授与式			

- 注 1. 上記の行事予定の詳細及びその他の行事の予定については、掲示により通知します。  
 2. 行事予定は、都合により変更することがありますので、掲示に注意してください。  
 3. 全学共通教育における行事予定と一致しない日程もありますので、注意してください。  
 4. 他学部等開講授業科目の履修登録期限は、このスケジュールとは別となるので、注意してください。  
 5. 次年度以降の行事予定は、KOAN掲示板及び大阪大学人間科学研究科ホームページでお知らせします。



# 人間科学研究科学生便覧 目次

- ◆平成29年度学年暦（行事予定）
- ◆平成29年度学年暦（授業スケジュール）
- ◆目次
- ◆学生便覧に関する注意書き

## <教育課程・履修関連ガイド>

人間科学研究科の教育目標・教育課程	1
平成29年度入学者の修了に係る履修方法等	2
●履修方法（博士前期課程・博士後期課程）	2
●博士前期課程教育課程表（授業科目一覧）	3
●博士後期課程教育課程表（授業科目一覧）	10
●留意事項	14
全学の大学院学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内	15
履修・試験・授業等に関すること	19
研究指導・修士論文・博士論文に関すること	23

## <修学・学生生活関連ガイド>

修学・学生生活等における諸事項	26
授業料	32
奨学金	35
健康管理・学生相談	37
保険・リスク管理	38
学部・研究科内の施設等	40
人間科学研究科各室及び研究科附属未来共創センターの紹介	42
就職	44
資格・免許	46
人間科学研究科・人間科学部教員一覧	50
人間科学研究科・人間科学部講義室等配置図	54

## 学生便覧に関する注意書き

この学生便覧は、皆さんがこれから大阪大学で学び、学業を修めるために必要となる重要な情報を掲載しています。また、学生生活を送るうえで必要となる手続きやルール、その他の案内事項についても取りまとめています。内容をよく読み、大切に保管しておくようにしてください。

なお、この学生便覧を冊子として配付するのは入学時のみとなります。在学中、学生便覧の内容に変更が生じたときや更新が生じた場合には、K O A N 掲示板や大阪大学人間科学研究科・人間科学部のホームページに掲載しお知らせします。

### <留意事項>

- この学生便覧に掲載する情報の多くは、大阪大学、あるいは大阪大学人間科学研究科・人間科学部が定める規程等に基づいています。代表的な規程について列挙します。

### <大阪大学ホームページ/大阪大学規程集>

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/about/code.html>

以下、上記規程集に掲載されています。

#### ○大阪大学学部学則

[http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki\\_honbun/u035RG00000001.html](http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000001.html)

#### ○大阪大学大学院学則

[http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki\\_honbun/u035RG00000002.html](http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000002.html)

#### ○大阪大学学位規程

[http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki\\_honbun/u035RG00000093.html](http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000093.html)

#### ○大阪大学学生納付金規程

[http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki\\_honbun/u035RG00000468.html](http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000468.html)

#### ○大阪大学人間科学部規程

[http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki\\_honbun/u035RG00000156.html](http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000156.html)

#### ○大阪大学大学院人間科学研究科規程

[http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki\\_honbun/u035RG00000157.html](http://www.osaka-u.ac.jp/jp/about/kitei/reiki_honbun/u035RG00000157.html)

- この学生便覧に掲載する情報のうち、ホームページのURLを掲載しているものは、当該ホームページにより詳細な情報が掲載されています。確認してください。
- 時間割表やシラバスは、人間科学研究科・人間科学部ホームページ/在学生の情報へ  
<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>

平成 29 年度入学者

# 大阪大学大学院 人間科学研究科

教育課程・履修関連ガイド

## 人間科学研究科の教育目標・教育課程

### 教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、人間科学研究科は1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。平成28年度からはその目的をさらに高いレベルで実現するために、本研究科ならではの学際性を活かして、共生学という学問分野を創設しています。

その目的の実現のため、

- 学際性：文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- 実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化し、現場と密接に結びついて研究課題の解明を希求する、問題発見・解決型の教育・研究に取り組むこと。
- 国際性：グローバル社会の中でも、〈知〉を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士前期課程では、高度な専門性を持つ職業人の養成や、博士後期課程に進学し研究者となるべき基礎の習得を目指しています。博士後期課程では、学位を取得して、研究者や大学教員となるための資質を涵養します。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受け、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる、人間と人間が営む社会がかかえる諸問題を解決するために、グローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

- 「人間科学専攻」の下に設置された4つの学系（行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系）を横断する知の獲得が可能となるように、共通科目群を設定するとともに、学系相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。
- 学系の下に設置された8つの大講座（人間行動学、行動生態学、社会環境学、基礎人間科学、臨床教育学、教育環境学、未来共生学、グローバル共生学）においては、それぞれに高度な専門性を発達させるための系統的プログラムが用意されています。
- 科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文学的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。
- 幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラム及び高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士前期課程と博士後期課程の一貫教育を基軸としています。博士前期課程では多様な講義・演習を履修しつつ修士論文を完成させます。博士後期課程では博士論文の完成を目指して、個々の研究課題に取り組むとともに、その取り組みを促進する特別演習・特別研究を履修します。

リーディング大学院（超域イノベーション及び未来共生イノベーター）の2つプログラムの科目にも参加することができます。

## 平成 29 年度入学者の修了に係る履修方法等

### 平成 29 年度入学者の履修方法

博士前期課程を修了するためには、この課程に2年以上在学し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

博士後期課程を修了するためには、この課程に3年以上在学し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

上記の大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法については、次表のとおりです。

### 大阪大学人間科学研究科規程

#### 1 博士前期課程

区 分	修得単位数等
必修科目	基礎科目の「人間科学学際研究特講」2 単位
選択必修科目	当該講座の授業科目の中から特講又は演習 8 単位以上
	当該講座の授業科目の中から特定研究 4 単位以上
	本研究科の他の講座の授業科目又は共通科目の中から 4 単位以上
選択科目	当該講座若しくは本研究科の他の講座の授業科目、共通科目、大学院横断教育科目又は他の研究科の授業科目の中から 12 単位以上
合計	上記の要件をすべて満たしたうえで、合計 30 単位以上を修得しなければならない。

#### 2 博士後期課程

区 分	修得単位数等
選択必修科目	当該講座の授業科目の中から特別研究 4 単位以上
	当該講座の授業科目の中から特別演習等 4 単位以上
選択科目	本研究科若しくは他の研究科の後期課程の授業科目又は大学院横断教育科目の中から 4 単位以上
合計	上記の要件をすべて満たしたうえで、合計 12 単位以上を修得しなければならない。

平成 29 年度入学者の人間科学研究科専門教育科目教育課程表（授業科目一覧表）

大阪大学人間科学研究科規程（前期課程授業科目表）

人間科学専攻

区分	授業科目名	単位数	備考
基礎科目	人間科学学際研究特講	2	
人間行動学講座	基礎心理学特講Ⅰ	2	
	基礎心理学特講Ⅱ	2	
	基礎心理学特講Ⅲ	2	
	基礎心理学特定演習Ⅰ	2	
	基礎心理学特定演習Ⅱ	2	
	基礎心理学特定研究Ⅰ	2	
	基礎心理学特定研究Ⅱ	2	
	応用認知心理学特講Ⅰ	2	
	応用認知心理学特講Ⅱ	2	
	応用認知心理学特定演習Ⅰ	2	
	応用認知心理学特定演習Ⅱ	2	
	応用認知心理学特定研究Ⅰ	2	
	応用認知心理学特定研究Ⅱ	2	
	社会心理学特講Ⅰ	2	
	社会心理学特講Ⅱ	2	
	社会心理学特定演習Ⅰ	2	
	社会心理学特定演習Ⅱ	2	
	社会心理学特定研究Ⅰ	2	
	社会心理学特定研究Ⅱ	2	
	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ	2	
	臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ	2	
	臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅰ	2	
	臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅱ	2	
	臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅰ	2	
	臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅱ	2	
	環境行動学特講Ⅰ	2	
	環境行動学特講Ⅱ	2	
	環境行動学特講Ⅲ	2	
	環境行動学特定演習Ⅰ	2	
	環境行動学特定演習Ⅱ	2	
	環境行動学特定研究Ⅰ	2	
	環境行動学特定研究Ⅱ	2	
	安全行動学特講Ⅰ	2	
	安全行動学特講Ⅱ	2	
	安全行動学特定演習Ⅰ	2	
	安全行動学特定演習Ⅱ	2	
	安全行動学特定研究Ⅰ	2	
	安全行動学特定研究Ⅱ	2	
	人間行動学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
	人間行動学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
	人間行動学方法実習Ⅰ	2	
	人間行動学方法実習Ⅱ	2	
行動生態学講座	比較発達心理学特講Ⅰ	2	
	比較発達心理学特講Ⅱ	2	
	比較発達心理学特定演習Ⅰ	2	
	比較発達心理学特定演習Ⅱ	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
行動生態学講座	比較発達心理学特定研究Ⅰ	2	
	比較発達心理学特定研究Ⅱ	2	
	行動生理学特講Ⅰ	2	
	行動生理学特講Ⅱ	2	
	行動生理学特定演習Ⅰ	2	
	行動生理学特定演習Ⅱ	2	
	行動生理学特定研究Ⅰ	2	
	行動生理学特定研究Ⅱ	2	
	行動統計科学特講Ⅰ	2	
	行動統計科学特講Ⅱ	2	
	行動統計科学特定演習Ⅰ	2	
	行動統計科学特定演習Ⅱ	2	
	行動統計科学特定研究Ⅰ	2	
	行動統計科学特定研究Ⅱ	2	
	生物人類学特講Ⅰ	2	
	生物人類学特講Ⅱ	2	
	生物人類学特定演習Ⅰ	2	
	生物人類学特定演習Ⅱ	2	
	生物人類学特定研究Ⅰ	2	
	生物人類学特定研究Ⅱ	2	
	比較行動学特講Ⅰ	2	
	比較行動学特講Ⅱ	2	
	比較行動学特講Ⅲ	2	
	比較行動学特定演習Ⅰ	2	
	比較行動学特定演習Ⅱ	2	
	比較行動学特定研究Ⅰ	2	
	比較行動学特定研究Ⅱ	2	
	行動科学特別講義Ⅰ	2	
	行動科学特別講義Ⅱ	2	
	行動生態学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
	行動生態学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
	行動生態学方法実習Ⅰ	2	
行動生態学方法実習Ⅱ	2		
社会環境学講座	社会学理論特講	2	
	社会学説史特講	2	
	社会学理論特定演習Ⅰ	2	
	社会学理論特定演習Ⅱ	2	
	社会学理論特定研究Ⅰ	2	
	社会学理論特定研究Ⅱ	2	
	現代社会学特講	2	
	現代社会学特定演習Ⅰ	2	
	現代社会学特定演習Ⅱ	2	
	現代社会学特定研究Ⅰ	2	
	現代社会学特定研究Ⅱ	2	
	計量社会学特講	2	
	経験社会学特講	2	
	宗教社会学特講	2	
	社会情報学特講	2	
	社会データ科学特講	2	
	社会調査特定演習Ⅰ	2	
	社会調査特定演習Ⅱ	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
社会環境学講座	経験社会学特定研究Ⅰ	2	
	経験社会学特定研究Ⅱ	2	
	社会データ科学特定研究Ⅰ	2	
	社会データ科学特定研究Ⅱ	2	
	コミュニケーション社会学特講	2	
	メディアと社会特講	2	
	家族社会学特講	2	
	ジェンダー論特講	2	
	コミュニケーション社会学特定演習Ⅰ	2	
	コミュニケーション社会学特定演習Ⅱ	2	
	コミュニケーション社会学特定研究Ⅰ	2	
	コミュニケーション社会学特定研究Ⅱ	2	
	文化社会学特講	2	
	比較社会学特講	2	
	社会変動論特講	2	
	文化社会学特定演習Ⅰ	2	
	文化社会学特定演習Ⅱ	2	
	文化社会学特定研究Ⅰ	2	
	文化社会学特定研究Ⅱ	2	
	社会保障政策論特講Ⅰ	2	
	社会保障政策論特講Ⅱ	2	
	比較福祉論特講Ⅰ	2	
	比較福祉論特講Ⅱ	2	
	市民活動論特講	2	
	ボランティア社会論特講	2	
	福祉社会論特定演習Ⅰ	2	
	福祉社会論特定演習Ⅱ	2	
	福祉社会論特定研究Ⅰ	2	
	福祉社会論特定研究Ⅱ	2	
	社会学・人間学特別講義Ⅰ	2	
	社会学・人間学特別講義Ⅱ	2	
社会環境学フィールドワーク実習Ⅰ	2		
社会環境学フィールドワーク実習Ⅱ	2		
社会環境学方法実習Ⅰ	2		
社会環境学方法実習Ⅱ	2		
基礎人間科学講座	人間科学基礎理論特講	2	
	科学哲学特講	2	
	科学哲学特定演習Ⅰ	2	
	科学哲学特定演習Ⅱ	2	
	科学哲学特定研究Ⅰ	2	
	科学哲学特定研究Ⅱ	2	
	認知システム論特講	2	
	言語・情報論特講	2	
	現代思想論特講	2	
	哲学の人間学特講	2	
	現代思想特定演習Ⅰ	2	
	現代思想特定演習Ⅱ	2	
	現代思想特定研究Ⅰ	2	
	現代思想特定研究Ⅱ	2	
	表象・記号学特講	2	
	現象学的な質的研究特講	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
基礎人間科学講座	比較文明学特講	2	
	文明動態学特講	2	
	比較思想史特講	2	
	比較文明学特定演習Ⅰ	2	
	比較文明学特定演習Ⅱ	2	
	比較文明学特定研究Ⅰ	2	
	比較文明学特定研究Ⅱ	2	
	人類学理論特講	2	
	グローバル化と文化特講	2	
	人類学特定演習Ⅰ	2	
	人類学特定演習Ⅱ	2	
	人類学特定演習Ⅲ	2	
	人類学特定研究Ⅰ	2	
	人類学特定研究Ⅱ	2	
	科学技術と文化特講	2	
	異文化理解特講	2	
	応用人類学特講	2	
	政治経済の人類学特講	2	
	人類学文献講読特講	2	
	科学技術と文化特定演習	2	
	科学技術と文化特定研究Ⅰ	2	
	科学技術と文化特定研究Ⅱ	2	
	基礎人間科学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
基礎人間科学フィールドワーク実習Ⅱ	2		
基礎人間科学方法実習Ⅰ	2		
基礎人間科学方法実習Ⅱ	2		
臨床教育学講座	教育人間学特講Ⅰ	2	
	教育人間学特講Ⅱ	2	
	外国教育史特講	2	
	教育哲学特講	2	
	教育思想史特講	2	
	教育人間学特定演習Ⅰ	2	
	教育人間学特定演習Ⅱ	2	
	教育人間学特定研究Ⅰ	2	
	教育人間学特定研究Ⅱ	2	
	教育工学特講Ⅰ	2	
	教育工学特講Ⅱ	2	
	教育工学特定演習Ⅰ	2	
	教育工学特定演習Ⅱ	2	
	教育工学特定研究Ⅰ	2	
	教育工学特定研究Ⅱ	2	
	教育心理学特講	2	
	人格心理学特講	2	
	教育心理学特定演習Ⅰ	2	
	教育心理学特定演習Ⅱ	2	
	教育心理学特定研究Ⅰ	2	
	教育心理学特定研究Ⅱ	2	
	教育コミュニケーション学特講Ⅰ	2	
	教育コミュニケーション学特講Ⅱ	2	
教育コミュニケーション学特定演習Ⅰ	2		
教育コミュニケーション学特定演習Ⅱ	2		

区分	授業科目名	単位数	備考
臨床教育学講座	教育コミュニケーション学特定研究Ⅰ	2	
	教育コミュニケーション学特定研究Ⅱ	2	
	臨床心理学特講Ⅰ	2	
	臨床心理学特講Ⅱ	2	
	臨床心理面接特講Ⅰ	2	
	臨床心理面接特講Ⅱ	2	
	心理療法特講	2	
	障がい児(者)心理学特講Ⅰ	2	
	障がい児(者)心理学特講Ⅱ	2	
	臨床心理学研究法特講	2	
	臨床心理査定演習Ⅰ	2	
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	
	臨床心理学特定演習Ⅰ	2	
	臨床心理学特定演習Ⅱ	2	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	
	臨床心理基礎実習Ⅱ	2	
	臨床心理実習Ⅰ	2	
	臨床心理実習Ⅱ	2	
	臨床心理学特定研究Ⅰ	2	
	臨床心理学特定研究Ⅱ	2	
	認知臨床心理学特定研究Ⅰ	2	
	認知臨床心理学特定研究Ⅱ	2	
	臨床教育学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
臨床教育学フィールドワーク実習Ⅱ	2		
臨床教育学方法実習Ⅰ	2		
臨床教育学方法実習Ⅱ	2		
教育環境学講座	教育社会学特講	2	
	高等教育論特講	2	
	教育動態学特講	2	
	教育社会学特定演習Ⅰ	2	
	教育社会学特定演習Ⅱ	2	
	教育社会学特定研究Ⅰ	2	
	教育社会学特定研究Ⅱ	2	
	教育制度学特講	2	
	学校経営学特講	2	
	日本教育史特講	2	
	教育制度学特定演習Ⅰ	2	
	教育制度学特定演習Ⅱ	2	
	教育制度学特定研究Ⅰ	2	
	教育制度学特定研究Ⅱ	2	
	生涯教育学特講	2	
	共生教育学特講	2	
	ジェンダーと教育特講	2	
	生涯教育学特定演習Ⅰ	2	
	生涯教育学特定演習Ⅱ	2	
	生涯教育学特定研究Ⅰ	2	
	生涯教育学特定研究Ⅱ	2	
	教育文化学特講	2	
	学校社会学特講	2	
コミュニティ教育学特講	2		
教育文化学特定演習Ⅰ	2		

区分	授業科目名	単位数	備考
教育環境学講座	教育文化学特定演習Ⅱ	2	
	教育文化学特定研究Ⅰ	2	
	教育文化学特定研究Ⅱ	2	
	教育学特別講義Ⅰ	2	
	教育学特別講義Ⅱ	2	
	教育環境学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
	教育環境学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
	教育環境学方法実習Ⅰ	2	
	教育環境学方法実習Ⅱ	2	
未来共生学講座	共生の人間学特講Ⅰ	2	
	共生の人間学特講Ⅱ	2	
	共生の人間学特定演習Ⅰ	2	
	共生の人間学特定演習Ⅱ	2	
	共生の人間学特定研究Ⅰ	2	
	共生の人間学特定研究Ⅱ	2	
	共生社会論特講Ⅰ	2	
	共生社会論特講Ⅱ	2	
	共生社会論特講Ⅲ	2	
	共生社会論特定演習Ⅰ	2	
	共生社会論特定演習Ⅱ	2	
	共生社会論特定研究Ⅰ	2	
	共生社会論特定研究Ⅱ	2	
	共生行動論特講Ⅰ	2	
	共生行動論特講Ⅱ	2	
	共生行動論特定演習Ⅰ	2	
	共生行動論特定演習Ⅱ	2	
	共生行動論特定研究Ⅰ	2	
	共生行動論特定研究Ⅱ	2	
	共生教育論特講Ⅰ	2	
	共生教育論特講Ⅱ	2	
	共生教育論特定演習Ⅰ	2	
	共生教育論特定演習Ⅱ	2	
	共生教育論特定研究Ⅰ	2	
	共生教育論特定研究Ⅱ	2	
	未来共生学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
未来共生学フィールドワーク実習Ⅱ	2		
未来共生学方法実習Ⅰ	2		
未来共生学方法実習Ⅱ	2		
グローバル共生学講座	国際協力学特講Ⅰ	2	
	国際協力学特講Ⅱ	2	
	国際協力学特定演習Ⅰ	2	
	国際協力学特定演習Ⅱ	2	
	教育と国際開発	2	
	国際協力学特定研究Ⅰ	2	
	国際協力学特定研究Ⅱ	2	
	多文化共生学特講Ⅰ	2	
	多文化共生学特講Ⅱ	2	
	多文化共生学特定演習Ⅰ	2	
	多文化共生学特定演習Ⅱ	2	
	多文化共生学特定研究Ⅰ	2	
	多文化共生学特定研究Ⅱ	2	

区分		授業科目名	単位数	備考
グローバル共生学講座		地域創生論特講Ⅰ	2	
		地域創生論特講Ⅱ	2	
		地域創生論特定演習Ⅰ	2	
		地域創生論特定演習Ⅱ	2	
		地域創生論特定研究Ⅰ	2	
		地域創生論特定研究Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特講Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特講Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特定演習Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特定演習Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特定研究Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特定研究Ⅱ	2	
		グローバル共生学フィールドワーク実習Ⅰ	2	
		グローバル共生学フィールドワーク実習Ⅱ	2	
		グローバル共生学方法実習Ⅰ	2	
		グローバル共生学方法実習Ⅱ	2	
共通科目	コンフリクトの人文学	コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ	2	GCOE 科目
		コンフリクトの文明学特定演習Ⅱ	2	
		コンフリクトの人文学特講Ⅰ	2	
		コンフリクトの人文学特講Ⅱ	2	
	インターンシップ	インターンシップ A	2	
		インターンシップ B	2	
	地域言語	地域言語Ⅰ	2	
		地域言語Ⅱ	2	
	人間科学データによる包括的専門教育	人間科学方法演習	2	大学院教育改革推進科目
		人間科学基礎実習	2	
		人間科学専門演習Ⅰ	2	
		人間科学専門演習Ⅱ	2	
		英語による論文作成・研究発表演習	2	
	高度副プログラム	フィールド調査・評価入門	2	
		フィールド調査法特講	2	
		社会における科学技術特定演習	2	
		多文化医療通訳概論	2	
		認知脳科学論	2	
		医療通訳論Ⅰ	2	
		医療通訳論Ⅱ	2	
		国際健康開発論特講	2	
		認知脳科学論特定演習	2	
		エスノグラフィーの基礎理論	2	
キャリアデザイン	キャリアデザイン特講	2		
学系横断	総合人間科学特講Ⅰ	2		
	総合人間科学特講Ⅱ	2		
	総合人間科学特講Ⅲ	2		
	総合人間科学特講Ⅳ	2		
	人間科学国際特講Ⅰ	2		
	人間科学国際特講Ⅱ	2		
	人間科学国際特講Ⅲ	2		
	人間科学国際特講Ⅳ	2		
	人間科学国際特講Ⅴ	2		
	人間科学国際特講Ⅵ	2		
	総合人間科学実習Ⅰ	2		
	総合人間科学実習Ⅱ	2		

## 大阪大学人間科学研究科規程（後期課程授業科目表）

## 人間科学専攻

区 分	授 業 科 目 名	単位数	備 考
人間行動学講座	基礎心理学特別演習Ⅰ	2	
	基礎心理学特別演習Ⅱ	2	
	基礎心理学特別研究Ⅰ	2	
	基礎心理学特別研究Ⅱ	2	
	応用認知心理学特別演習Ⅰ	2	
	応用認知心理学特別演習Ⅱ	2	
	応用認知心理学特別研究Ⅰ	2	
	応用認知心理学特別研究Ⅱ	2	
	社会心理学特別演習Ⅰ	2	
	社会心理学特別演習Ⅱ	2	
	社会心理学特別研究Ⅰ	2	
	社会心理学特別研究Ⅱ	2	
	臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ	2	
	臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅱ	2	
	臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅰ	2	
	臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅱ	2	
	環境行動学特別演習Ⅰ	2	
	環境行動学特別演習Ⅱ	2	
	環境行動学特別研究Ⅰ	2	
	環境行動学特別研究Ⅱ	2	
	安全行動学特別演習Ⅰ	2	
	安全行動学特別演習Ⅱ	2	
	安全行動学特別研究Ⅰ	2	
	安全行動学特別研究Ⅱ	2	
人間行動学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2		
人間行動学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2		
行動生態学講座	比較発達心理学特別演習Ⅰ	2	
	比較発達心理学特別演習Ⅱ	2	
	比較発達心理学特別研究Ⅰ	2	
	比較発達心理学特別研究Ⅱ	2	
	行動生理学特別演習Ⅰ	2	
	行動生理学特別演習Ⅱ	2	
	行動生理学特別研究Ⅰ	2	
	行動生理学特別研究Ⅱ	2	
	行動統計科学特別演習Ⅰ	2	
	行動統計科学特別演習Ⅱ	2	
	行動統計科学特別研究Ⅰ	2	
	行動統計科学特別研究Ⅱ	2	
	生物人類学特別演習Ⅰ	2	
	生物人類学特別演習Ⅱ	2	
	生物人類学特別研究Ⅰ	2	
	生物人類学特別研究Ⅱ	2	
	比較行動学特別演習Ⅰ	2	
	比較行動学特別演習Ⅱ	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
行動生態学講座	比較行動学特別研究Ⅰ	2	
	比較行動学特別研究Ⅱ	2	
	行動生態学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
	行動生態学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	
社会環境学講座	社会学理論特別演習Ⅰ	2	
	社会学理論特別演習Ⅱ	2	
	社会学理論特別研究Ⅰ	2	
	社会学理論特別研究Ⅱ	2	
	現代社会学特別演習Ⅰ	2	
	現代社会学特別演習Ⅱ	2	
	現代社会学特別研究Ⅰ	2	
	現代社会学特別研究Ⅱ	2	
	経験社会学特別研究Ⅰ	2	
	経験社会学特別研究Ⅱ	2	
	社会調査特別演習Ⅰ	2	
	社会調査特別演習Ⅱ	2	
	社会データ科学特別研究Ⅰ	2	
	社会データ科学特別研究Ⅱ	2	
	コミュニケーション社会学特別演習Ⅰ	2	
	コミュニケーション社会学特別演習Ⅱ	2	
	コミュニケーション社会学特別研究Ⅰ	2	
	コミュニケーション社会学特別研究Ⅱ	2	
	文化社会学特別演習Ⅰ	2	
	文化社会学特別演習Ⅱ	2	
	文化社会学特別研究Ⅰ	2	
	文化社会学特別研究Ⅱ	2	
	福祉社会論特別演習Ⅰ	2	
	福祉社会論特別演習Ⅱ	2	
	福祉社会論特別研究Ⅰ	2	
	福祉社会論特別研究Ⅱ	2	
社会環境学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2		
社会環境学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2		
基礎人間科学講座	科学哲学特別演習Ⅰ	2	
	科学哲学特別演習Ⅱ	2	
	科学哲学特別研究Ⅰ	2	
	科学哲学特別研究Ⅱ	2	
	現代思想特別演習Ⅰ	2	
	現代思想特別演習Ⅱ	2	
	現代思想特別研究Ⅰ	2	
	現代思想特別研究Ⅱ	2	
	比較文明学特別演習Ⅰ	2	
	比較文明学特別演習Ⅱ	2	
	比較文明学特別研究Ⅰ	2	
	比較文明学特別研究Ⅱ	2	
	人類学特別演習Ⅰ	2	
	人類学特別演習Ⅱ	2	
	人類学特別演習Ⅲ	2	
	人類学特別研究Ⅰ	2	

区分	授業科目名	単位数	備考
基礎人間科学講座	人類学特別研究Ⅱ	2	
	科学技術と文化特別演習	2	
	科学技術と文化特別研究Ⅰ	2	
	科学技術と文化特別研究Ⅱ	2	
	基礎人間科学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
	基礎人間科学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	
臨床教育学講座	教育人間学特別演習Ⅰ	2	
	教育人間学特別演習Ⅱ	2	
	教育人間学特別研究Ⅰ	2	
	教育人間学特別研究Ⅱ	2	
	教育工学特別演習Ⅰ	2	
	教育工学特別演習Ⅱ	2	
	教育工学特別研究Ⅰ	2	
	教育工学特別研究Ⅱ	2	
	教育心理学特別演習Ⅰ	2	
	教育心理学特別演習Ⅱ	2	
	教育心理学特別研究Ⅰ	2	
	教育心理学特別研究Ⅱ	2	
	教育コミュニケーション学特別演習Ⅰ	2	
	教育コミュニケーション学特別演習Ⅱ	2	
	教育コミュニケーション学特別研究Ⅰ	2	
	教育コミュニケーション学特別研究Ⅱ	2	
	臨床心理学特別演習Ⅰ	2	
	臨床心理学特別演習Ⅱ	2	
	臨床心理学特別研究Ⅰ	2	
	臨床心理学特別研究Ⅱ	2	
	認知臨床心理学特別研究Ⅰ	2	
	認知臨床心理学特別研究Ⅱ	2	
臨床教育学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2		
臨床教育学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2		
教育環境学講座	教育社会学特別演習Ⅰ	2	
	教育社会学特別演習Ⅱ	2	
	教育社会学特別研究Ⅰ	2	
	教育社会学特別研究Ⅱ	2	
	教育制度学特別演習Ⅰ	2	
	教育制度学特別演習Ⅱ	2	
	教育制度学特別研究Ⅰ	2	
	教育制度学特別研究Ⅱ	2	
	生涯教育学特別演習Ⅰ	2	
	生涯教育学特別演習Ⅱ	2	
	生涯教育学特別研究Ⅰ	2	
	生涯教育学特別研究Ⅱ	2	
	教育文化学特別演習Ⅰ	2	
	教育文化学特別演習Ⅱ	2	
	教育文化学特別研究Ⅰ	2	
	教育文化学特別研究Ⅱ	2	
	教育環境学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
	教育環境学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	

区分		授業科目名	単位数	備考
未来共生学講座		共生の人間学特別演習Ⅰ	2	
		共生の人間学特別演習Ⅱ	2	
		共生の人間学特別研究Ⅰ	2	
		共生の人間学特別研究Ⅱ	2	
		共生社会論特別演習Ⅰ	2	
		共生社会論特別演習Ⅱ	2	
		共生社会論特別研究Ⅰ	2	
		共生社会論特別研究Ⅱ	2	
		共生行動論特別演習Ⅰ	2	
		共生行動論特別演習Ⅱ	2	
		共生行動論特別研究Ⅰ	2	
		共生行動論特別研究Ⅱ	2	
		共生教育論特別演習Ⅰ	2	
		共生教育論特別演習Ⅱ	2	
		共生教育論特別研究Ⅰ	2	
		共生教育論特別研究Ⅱ	2	
		未来共生学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
		未来共生学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	
グローバル共生学講座		国際協力学特別演習Ⅰ	2	
		国際協力学特別演習Ⅱ	2	
		国際協力学特別研究Ⅰ	2	
		国際協力学特別研究Ⅱ	2	
		多文化共生学特別演習Ⅰ	2	
		多文化共生学特別演習Ⅱ	2	
		多文化共生学特別研究Ⅰ	2	
		多文化共生学特別研究Ⅱ	2	
		地域創生論特別演習Ⅰ	2	
		地域創生論特別演習Ⅱ	2	
		地域創生論特別研究Ⅰ	2	
		地域創生論特別研究Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特別演習Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特別演習Ⅱ	2	
		コンフリクトと共生特別研究Ⅰ	2	
		コンフリクトと共生特別研究Ⅱ	2	
		グローバル共生学フィールドワーク特別実習Ⅰ	2	
		グローバル共生学フィールドワーク特別実習Ⅱ	2	
共通科目	コンフリクトの人文学	コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ	2	GCOE 科目
		コンフリクトの文明学特別演習Ⅱ	2	
		コンフリクトの人文学特別講義Ⅰ	2	
		コンフリクトの人文学特別講義Ⅱ	2	
	高度副プログラム	認知脳科学論特別演習	2	
		社会における科学技術特別演習	2	
	学系横断	総合人間科学特別実習Ⅰ	2	
		総合人間科学特別実習Ⅱ	2	

履修方法等に関連する留意事項は下記のとおりです。

#### (1) 人間科学研究科の授業科目の履修（博士前期課程のみ）

履修申請時に研究科委員会の承認を得て、本学部の授業科目を履修して修得した単位は、8単位を超えない範囲で選択科目の単位に充当することができる。（指導教員の承認印をもらった所定の様式を教務係に提出すること）

#### (2) リーディングプログラムの授業科目の履修（博士前期課程のみ）

履修申請時に研究科委員会の承認を得て、リーディングプログラムの授業科目を履修して修得した単位は、選択科目の単位に充当することができる。（指導教員の承認印をもらった所定の様式を教務係に提出すること）

#### (3) 外国の大学に留学中に修得した単位について（博士前期課程・博士後期課程共通）

本学（本研究科）と大学間（部局間）学術交流協定を締結している外国の大学に留学し、当該大学で単位を修得した場合、所定の手続のうえ、本研究科の単位として認定することができる。（休学期間中に協定校以外の海外の大学で修得した科目の単位についても、上記と同様に認定が可能）

#### (4) 未来共創センターにおける実践型学修活動の単位認定について

未来共創センターにおける実践型の諸活動に学生が主体的に関わり、その学修活動の成果等に対して単位認定を申請する場合は、所定の申請様式をセンターに提出すること。

なお、単位認定は、教務委員会で審査するとともに、認められた場合は次の科目として認定する。

博士前期課程：共通科目「総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」

博士後期課程：共通科目「総合人間科学特別実習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」

#### (5) その他

##### ○大学院履修モデル

人間科学研究科では、研究分野（一部は講座単位）ごとに複数の履修モデルを作成しており、大阪大学人間科学研究科／人間科学部のWebサイトで公開しています。このモデルを参考とし、ガイダンスや指導教員、副指導教員等の指導に従って授業科目を履修してください。

##### ○大学院横断教育科目

大学院横断教育科目については、本冊子の別ページに概要を掲載しています。本研究科は、学際性、実践性及び国際性を教育研究の柱に掲げており、本研究科教育課程の授業科目を履修し、さらに専門領域と関連する、あるいは専門領域と異なる、これらの科目を履修することは、知識と教養を深めるためにも有効な手段です。

##### ○大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム及び知のジムナスティックス（高度教養プログラム）

大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム及び知のジムナスティックス（高度教養プログラム）については、本冊子の別ページに概要を掲載しています。本研究科は、学際性、実践性及び国際性を教育研究の柱に掲げており、本研究科教育課程の授業科目を履修し、さらに専門領域と関連する、あるいは専門領域と異なる、これらの教育プログラムを履修することは、知識と教養を深めるためにも有効な手段です

## 全学の大学院学生対象に開設開講する授業科目・教育プログラムの案内

### 大学院横断教育科目

大学院横断教育科目とは、(1)コミュニケーションデザイン科目(高度汎用力育成ベーシック・プログラム)、(2)COデザイン科目(高度汎用力育成アドバンスト・プログラム)、(3)グローバルコラボレーション科目(真の国際性を備えた人材養成のための教育に関する授業科目)、(4)学際融合教育科目(分野を超えた全部局横断的な授業科目)の科目群により構成し、開講されている科目です。

人間科学研究科では、大学院横断科目から修得した単位は、博士前期課程、博士後期課程それぞれ、修了要件の選択科目となります。

#### (1) コミュニケーションデザイン科目

大阪大学では、高等教育における新しい教育の目標として「高度汎用力」の育成を掲げ、コミュニケーションデザイン科目を開講しています。コミュニケーションデザイン科目は、平成29年度に大幅な改編を行いました。新たなコミュニケーションデザイン科目は、対話することを通して、課題を発見し、ともにその解決をめざし、社会のなかで実践するための基礎的な教育プログラムとして、学部高学年から大学院博士前期課程を対象に開講されています。

コミュニケーションデザイン科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

#### (2) COデザイン科目

大阪大学では、高等教育における新しい教育の目標として「高度汎用力」の育成を掲げ、COデザイン科目を開講しています。COデザイン科目は、さまざまな現実の社会課題の解決を目指したアドバンスト・プログラムとして、より系統的に社会実践力を修養するための科目群で構成され、大学院学生を対象に開講されています。

COデザイン科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

#### (3) グローバルコラボレーション科目

大阪大学の教育目標の一つである「国際性」を強化するため、大阪大学グローバルイニシアティブセンターでは、グローバルコラボレーション科目を開講しています。グローバルコラボレーション科目は、①理論と方法論、②地域の多様性に関する知識、③現場で学ぶ視点の滋養、④実践による多角的な学び、と段階を踏んで学ぶことができ、文理系を問わず、高度な専門性と、専門性を越えた人的ネットワークのなかで専門性を発揮し得る力を兼ね備え、地球規模の諸課題について現場の視点に立って取り組むことができる人材を育成しています。大学院生を主体として開講される科目ですが、一部の科目は学部学生にも開講されています。

グローバルコラボレーション科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は下記ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

#### (4) 学際融合教育科目

本学における学際融合教育(研究科等の枠にとらわれない、複眼的視野を養うための教育)

のより一層の充実を目指して、学際融合教育科目が開講されています。文系の学生でも理系の学生でも受講しやすい科目となっています。なお、学際融合教育科目は「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」として全学の大学院学生に提供されていますので、興味のある方は是非履修してみてください。

学際融合教育科目の履修手続き方法、開講科目等の詳細は下記ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

## 大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム

大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムは、学生が所属する主専攻の教育課程以外の内容を学んだり、あるいは主専攻の専門性を生かすための関連分野を学んだりするための教育プログラムです。主専攻の学修と並行して、用意されたプログラム科目を効果的に受講することで、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野を養うことを目的としています。どちらのプログラムも、教育目標に沿った、一定のまとまりのある授業科目で構成されており、各プログラムが定める要件を満たすことで、所属する大学院の課程を修了（修士学位取得退学及び博士後期課程・博士課程単位修得退学を含む。）する際に当該プログラムの修了認定証が交付されます。

平成29年度は、以下に記載する「副専攻プログラム」及び「高度副プログラム」が実施されます。※平成30年度以降はホームページを参照してください。

各プログラムの詳細については、大阪大学のホームページをご参照ください。なお、大学院の新入生には別途プログラムの案内冊子を配付いたします。

### 【大学院副専攻プログラム】

各プログラムで要件は異なるが、制度上、1.4単位以上をプログラム修了要件とする。

プログラム名称	実施部局
アジア人材育成プログラム	工学研究科
公共圏における科学技術政策	COデザインセンター
金融・保険	数理・データ科学教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士前期課程高度学際教育副専攻プログラム）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士後期課程副専攻プログラム）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
超域イノベーション副専攻プログラム	未来戦略機構

## 【大学院等高度副プログラム】

各プログラムで要件は異なるが、制度上、8単位以上をプログラム修了要件とする。

プログラム名称	実施部局
グローバル・ジャパン・スタディーズ	文学研究科
グローバル化とコンフリクト——人間科学的アプローチ	人間科学研究科
イノベーションリーダー人材育成基礎プログラム	経済学研究科
基礎理学計測学	理学研究科
放射線科学	理学研究科
健康医療問題解決能力の涵養	医学系研究科（医科学専攻）
医療通訳	医学系研究科（医科学専攻）
健康・医療イノベーションプログラム	医学系研究科（医科学専攻）
スポーツ医科学研究プログラム	医学系研究科（医科学専攻）
医学倫理・研究ガバナンスプログラム	医学系研究科（医科学専攻）
高度がん医療人材育成プログラム	医学系研究科（保健学専攻）
看護教育・管理人材育成プログラム	医学系研究科（保健学専攻）
まちづくりデザイン学	工学研究科
高度溶接技術者プログラム	工学研究科
国際標準化	工学研究科
量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム	工学研究科
環境イノベーションデザイン学	工学研究科
科学技術をイノベーションにつなぐために	工学研究科
デジタルヒューマニティーズ：分析方法論と実践	言語文化研究科
文化と植民地主義	言語文化研究科
グローバルリーダーシップ・プログラム	国際公共政策研究科
感染症学免疫学融合プログラム	微生物病研究所
蛋白質解析先端研究プログラム	蛋白質研究所
インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践	国際教育交流センター
臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム： 専門科	国際医工情報センター
臨床医工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム： 高度職業人育成科	国際医工情報センター
公共圏における科学技術政策	COデザインセンター
ソーシャルデザイン	COデザインセンター
社会の臨床	COデザインセンター
データ科学	数理・データ科学教育研究センター
数理モデル	数理・データ科学教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練 プログラム（博士前期課程高度学際教育）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練 プログラム（博士後期課程社会人特別選抜）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練 プログラム（博士後期課程教育研究訓練プログラム）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練 プログラム（後期課程社会人ナノ理工学特別コース）	ナノサイエンスデザイン教育研究センター
知的財産法を修得した人材育成	知的財産センター
実学主義 ～企業の視点から科学する～	産学共創本部
大阪大学未来の大学教員養成プログラム	全学教育推進機構

## 知のジムナスティックス（高度教養プログラム）

大阪大学では、「一定の専門知識を身につけ、（職業人あるいは研究者として）社会にまもなく出て行く学生に対して、専門教育以外に必要な知識や能力を与える教育」として、全学の3年次以上の学部学生及び大学院学生を対象とした、「知のジムナスティックス（高度教養プログラム）」を提供しています。

このプログラムは、研究科・学部を超えた学びとして、自らの専門とは異なる知の領域に触れること、研究科・学部の異なる学生の協働による学びを経験することを重視しており、大阪大学各研究科・学部等で開講されている科目から、高度教養教育にふさわしい科目を精選して提供しています。これらの総合大学ならではの多様な科目から、学生一人ひとりが“つよさ・しなやかさ・バランス感覚”を兼ね備えた知性の涵養のためのプログラムを自主的に設計して履修できます。知のジムナスティックス科目は、知識習得を中心としたものと多様なスキルの習得を含むものがあり、それぞれの科目には、その特色や狙いに応じて、「世界を舞台に活動する」、「異分野の融合を社会に演出する」、「成熟した市民社会を創る」、「タフな知性で社会を輝かせる」の4種類のキーワードが付してあります。これらのキーワードを参考に、学生が一人ひとりの希望や計画にしたがって自由に科目を選択し、独自のプログラムを設計します。

なお、このプログラムには修了要件や修了認定等はありません。また、原則として所属している研究科・学部以外の部局が開講している科目を履修した場合には、プログラムの単位として認定し、成績証明書に高度教養科目である旨を記載します。

知のジムナスティックス（高度教養プログラム）の開講科目等の詳細は大阪大学ホームページを検索・参照してください。また、授業の内容はKOANシラバスを確認してください。

## 履修・試験・授業等に関すること

### 学期の区分及び名称について

大阪大学では1年を4つに区分する「4学期制」を採用しています。各学期の名称及び始期は次のとおりです。授業開講期間は1学期あたり8週となります。

- 春学期：4月1日
- 夏学期：年度毎に定める（6月中旬）
- 秋学期：10月1日
- 冬学期：年度毎に定める（12月初旬）

#### 【平成29年度 人間科学部・人間科学研究科】

（注）平成30年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

春学期： 4月1日 ～ 6月11日	夏学期： 6月12日 ～ 9月30日
秋学期： 10月1日 ～ 12月7日	冬学期： 11月28日 ～ 3月31日

### 授業科目の分類及び名称について

開設する授業科目は、開講する期間により次のとおり分類します。

#### （1）学期の区分ごとに開講する授業科目：ターム科目

（開講する期間は、春、夏、秋、冬学期となります。）

#### （2）春学期・夏学期（秋学期・冬学期）の区分ごとに開講する授業科目：セメスター科目

（開講する期間は、春・夏学期、秋・冬学期となります。）

#### （3）通年にわたり開講する授業科目：通年科目

（開講する期間は、春～冬学期となります。）

#### （4）特定の期間に集中開講する授業科目：集中講義科目

人間科学部研究科の場合、ほとんどの授業科目が（2）のセメスター科目として開講されます。なお、一部の授業科目は（1）のターム科目、または（4）の集中講義科目として開講されます。

### 集中講義について

人間科学研究科の授業科目の一部については、夏季休業中の特定期間を3つのゾーンに区分する中で、集中講義科目として開講します。集中講義の日程及びその開講科目は学生に配付する時間割表及びKOAN掲示板でお知らせします。

#### 【平成29年度 人間科学部・人間科学研究科集中講義】

（注）平成30年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

学 期	ゾ ーン	期 間
夏学期	A	8月28日（月）～ 9月 1日（金）
	B	9月 4日（月）～ 9月 8日（金）
	C	9月11日（月）～ 9月15日（金）

## 授業時間について

授業時間は次のとおりです。ほとんどの授業科目は時限単位で開講されます。

第1時限		第2時限		第3時限		第4時限		第5時限		第6時限
8:50	休 み	10:30	休 み	13:00	休 み	14:40	休 み	16:20	休 み	18:00
}		}		}		}		}		
10:20		12:00		14:30		16:10		17:50		19:30

## 授業時間割表及びシラバスについて

翌年度に開講する授業科目の授業時間割表及びシラバスについては、前年度3月末の時点で確定します。授業時間割表は人間科学研究科ホームページに掲載します。シラバスはKOANから参照してください。

人間科学研究科ホームページ シラバス/時間割

学 部 [http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus\\_undergraduate.html](http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_undergraduate.html)

大学院 [http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus\\_graduate.html](http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/syllabus_graduate.html)

## 授業科目の履修登録・履修取消・変更登録について

学生は、履修方法、履修指針、教員の指導等に基づき、シラバス等を参考とし、自ら履修計画を立てて授業科目の選択履修を行わなければなりません。授業科目を履修するためには指定する期限までに、KOAN（学務情報システム）により履修登録を行う必要があります。

なお、履修登録に関する留意事項は次のとおりです。

- (1) 同一時間における履修登録は、重複してできません。
- (2) 履修登録をしていない科目については試験を受けることができません。
- (3) 履修科目の追加、変更は、指定された期間内に行ってください。
- (4) 他研究科等の授業科目の履修申請は、当該科目担当教員の下承を得てください。

### 【平成29年度 人間科学部・人間科学研究科開講科目の履修登録等期間】

(注) 平成30年度以降はKOAN掲示板等でお知らせします。

開講期間（科目分類）	授業開始日	履修登録期間	履修登録変更期間	履修登録取消期間
春～夏学期（セメスター科目）	4/10(月)	4/3(月)～4/21(金)		4/24(月)～4/28(金)
春学期（ターム科目）	4/10(月)			4/24(月)～4/28(金)
夏学期（ターム科目）	6/12(月)		6/12(月)～6/16(金)	6/26(月)～6/30(金)
夏季集中講義			8/1(火)～8/7(月)	8/1(火)～8/7(月)
秋～冬学期（セメスター科目）	10/2(月)	10/2(月)～10/16(月)		10/17(火)～10/23(月)
秋学期（ターム科目）	10/2(月)			10/17(火)～10/23(月)
冬学期（ターム科目）	11/28(火)		11/28(火)～12/14(木)	12/18(月)～12/22(金)

## 試験について

試験については次のとおり要領を定めています。

1. 試験は通常授業の終了する学期の終りに行います。
2. 履修を申請していない科目については、原則として試験を受けることができません。
3. レポートをもって試験に代えるときは、提出条件及び期限を厳守してください。
4. 試験の際には、試験監督者の指示に従うほか、次のことに注意してください。
  - (1) 受験者は定刻までに、試験室に入室してください。
  - (2) 解答用紙は、答案記入の有無にかかわらず、提出してください。

## 試験等（レポート試験等を含む）における不正行為について

試験等（レポート試験等を含む）において、下記にあげる行為等を行った場合は不正行為とみなし、当該学期に受験した専門教育科目全ての成績評価を無効とします。

- (1) 持ち込み（使用）を許可された教科書、ノート、辞書等以外のものを使用した場合
- (2) カンニングペーパーの使用等、カンニングとみなされる行為を行った場合
- (3) 代人受験とみなされる行為を行った場合
- (4) その他試験監督者の指示に従わない場合
- (5) 授業担当教員が成績評価の対象として求めるレポート等の提出物において、他人の論文、著作、レポート、ウェブサイト、インターネット投稿、講義配布物（公表・未公表を問わない。）の一部または全部を剽窃した場合

## 成績評価に関する疑義申し立てについて

成績評価が筆記試験、レポート提出等の結果や出席状況などから判断して、明らかに誤記入（採点ミス、登録ミス）によるものと思われる場合は、成績評価に関する疑義申し立てを行うことができます。なお、成績評価の理由、根拠に関する申し立て及び成績評価についての特別な配慮を求める申し立ては受け付けません。

（受付期間）

疑義申し立てを行う授業科目の成績発表日から約1週間（土曜・日曜・祝日を除く）の期日で設定される受付期限までとします。（ただし、その他やむを得ない事情があると認められた場合は、この限りではありません。）

（申立方法）

人間科学研究科教務係において配付する「成績評価に関する疑義申立書（人間科学部・人間科学研究科）」に必要事項を記入の上、同係に提出してください。

## 授業・試験の欠席について

下記（別表）にあげる事由またはその他のやむを得ない事由により、授業及び試験を欠席した場合は、「欠席・試験欠席届」に医師の診断書または事実の確認できる証明書等を添付のうえ、教務係に提出し、許可を得た後、授業担当教員にその写しを提出してください。授業担当教員の判断により、一定の配慮を行います。

ただし、クラブ活動等の課外活動は、やむを得ない事由に該当しません。

(別表)

欠席事由	配慮を要する期間 (授業等に出席することができない範囲)
学校感染症(学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症)を罹患したことにより出席停止の措置を受けた場合	学校保健安全法施行規則第19条に規定する出席停止の期間
親族(2親等以内)が死亡した場合	配偶者・1親等…通夜、葬儀などのために要した日数(連続7日以内)、2親等…通夜、葬儀などのために要した日数(連続3日以内)
「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」に基づく裁判員の選任手続きのため及び裁判員の職務に従事するため裁判所に出頭した場合	裁判所に出頭した日
居住地及び通学経路に係る特別警報が発令された場合	特別警報が発令された日
教職課程の「教育(養護)実習」及び「介護等の体験」に参加する場合	「教育(養護)実習」及び「介護等の体験」の期間

### 気象警報発令時の授業の取扱いについて

大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか、またはこれらの市を含む地域」に「暴風警報」または「特別警報」が発令された場合、授業は休講とします。

なお、同警報が解除された場合の取扱いは次のとおりです。

警報解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を経過しても解除されない場合	全日授業休業

【注意】解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によります。

【補足】授業時間帯中に暴風警報又は特別警報が発令された場合は、当該授業終了以後は休講とします。

### 交通機関運休の場合の取扱いについて

ストライキ等により交通機関が運休となった場合、本学部への通学路線のうち特に「阪急電車」が運休した場合に限って次のとおり取扱います。

運休解除時刻	授業の取扱い
午前6時以前に解除された場合	全日授業実施
午前9時以前に解除された場合	午後授業実施
午前9時を経過しても解除されない場合	全日授業休業

【注意】解除の確認は、テレビ・ラジオ・インターネット等の報道によります。

## 研究指導・修士論文・博士論文に関すること

### 研究計画書及び研究概要報告書の提出について

大学院生は、毎年度当初に当該年度の研究計画書を作成し、4月下旬の指定する期日までに教務係へ提出してください。また、当該年度の研究概要報告書を作成し、2月中旬の指定する期日までに教務係へ提出してください。研究計画書の様式は年度当初のガイダンスで配付します。研究概要報告書の様式は年末までにKOANで掲示します。

### 副指導教員について

本研究科では、指導教員の他に副指導教員を設けて、複数の教員が研究指導等に当たることになっています。研究計画書の所定欄に、指導教員及び副指導教員の承認印を受領の上、提出してください。

### 修士論文の提出について

博士前期課程を修了するためには、修業年限の2年以上在学し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修士論文は、指導教員等による指導を仰ぎながら、その準備並びに執筆を進めていきます。修士論文の提出に係る手続き事項は教務係からKOAN掲示板等によりお知らせします。なお、概要は次のとおりです。

- ①博士前期課程2年次の修了予定者は、あらかじめ指導教員の承認を得て論文題目を決定し、下記の期限までに教務係で所定の手続きを行ってください。なお、期限に遅れた場合、修士論文は受理しません。

＜提出期限＞	修士論文題目提出	1 1月下旬の指定する期日及び時間
	修士論文提出	1 月上旬の指定する期日及び時間

(注) 提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。

- ②論文の体裁及び枚数等は指導教員から指示されます。論文は散逸せぬよう綴じ込み、表紙に論文提出票を貼付してください。
- ③論文提出のための各種所定用紙は教務係で配付します。  
なお、修士論文を提出できない博士前期課程2年次の学生は、論文題目届の提出期限までに「修士論文提出延期届」を提出しなければなりません。

### 博士論文の提出について

博士後期課程を修了するためには、修業年限の3年以上在学し、大阪大学人間科学研究科規程で定める履修方法により必要な単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。博士論文は、指導教員等による指導を仰ぎながら、その準備並びに執筆を進めていきます。博士論文の提出に係る手続き事項は教務係から別途お知らせします。なお、概要は次のとおりです。

- ①博士後期課程3年次の修了予定者は、あらかじめ指導教員の承認を得て論文題目を決定し、

下記の期限までに教務係で所定の手続きを行ってください。なお、期限に遅れた場合、博士論文は受理しません。

＜提出期限＞	博士論文題目提出	1 1月下旬の指定する期日及び時間
	博士論文提出	1 2月中旬の指定する期日及び時間
	博士論文公聴会〔公開〕	1月～2月
（注）提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。		

②論文の体裁及び枚数等は指導教員から指示されます。論文は散逸せぬよう綴じ込み、表紙に論文提出票を貼付してください。

③論文提出のための各種所定用紙は教務係で配付します。

なお、博士論文を提出できない博士後期課程3年次の学生は、論文題目届の提出期限までに「博士論文提出延期届」を提出しなければなりません。

博士後期課程に休学を除き3年以上在学し、次に該当する者は、下記の時期でも博士論文を提出することができます。（単位修得退学後3年以内の者を含む）

○所定の単位を修得していること

○必要な研究指導を受けていること（研究計画書及び研究概要報告書が提出されていること）

＜提出期限＞	博士論文題目提出	4月下旬の指定する期日及び時間
	博士論文提出	5月中旬の指定する期日及び時間
	博士論文公聴会〔公開〕	6月～7月
（注）提出の際には、本人及び指導教員の承認印が必要です。		

## 修士学位授与までのスケジュール

### 博士前期課程

年次	時 期	学 生	大学・指導教員等
1年	4月～（通年）	修了要件科目の履修	
	4月	研究計画書の提出	指導教員の閲読・認定
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
		スプリングレポートの作成	
2年	4月～（通年）	修了要件科目の履修	
	4月	研究計画書の提出	指導教員の閲読・認定
	1 1月下旬	修士論文題目届の提出	指導教員の閲読・認定
	1月上旬	修士論文の提出	指導教員の閲読・認定
	1月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
	2月	修士論文考査（各学系で実施）	審査委員による審査
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
	3月		研究科委員会で修了認定
	3月下旬		学位記授与

※各提出期限は教務係から通知

## 博士学位授与までのスケジュール

### 博士後期課程

年次	時 期	学 生	大学・指導教員等
1年	4月～（通年）	修了要件科目の履修	
	4月	研究計画書の提出	指導教員の閲読・認定
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
		リサーチ・プロポーザルの作成	
2年	4月～（通年）	修了要件科目の履修	
	4月	研究計画書の提出	指導教員の閲読・認定
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
		ウインター・ペーパーの作成	
3年	4月～（通年）	修了要件科目の履修	
	4月	研究計画書の提出	指導教員の閲読・認定
	1 1月下旬	博士論文題目届の提出	在籍期間、修得単位等の確認 指導教員の閲読・認定
	1 2月中旬	博士論文の提出	指導教員の閲読・認定
	1 2月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
	1月～2月	博士論文公聴会〔公開〕 （各学系で実施）	審査委員による審査
	2月中旬	研究概要報告書の提出	指導教員の閲読・認定
	2月～3月		研究科委員会で学位授与判定
	3月下旬		学位記授与
	3月	博士論文概要論文公刊	「人間科学研究科紀要」に概要論文を掲載

※各提出期限は教務係から通知

### 博士後期課程に休学を除き3年以上在学し、次に該当する者の学位申請スケジュール

（単位修得退学後3年以内の者を含む）

○所定の単位を修得していること

○必要な研究指導を受けていること（研究計画書及び研究概要報告書が提出されていること）

時 期	学 生	大学・指導教員等
4月下旬	博士論文題目届の提出	指導教員の閲読・認定 課程博士論文提出資格の確認
5月中旬	博士論文の提出	指導教員の閲読・認定
5月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
6月～7月	博士論文公聴会〔公開〕（各学系で実施）	審査委員による審査
9月		研究科委員会で学位授与判定
9月下旬		学位記授与
1 1月下旬	博士論文題目届の提出	指導教員の閲読・認定 課程博士論文提出資格の確認
1 2月中旬	博士論文の提出	指導教員の閲読・認定
1 2月下旬		研究科委員会で審査委員を決定
1月～2月	博士論文公聴会〔公開〕（各学系で実施）	審査委員による審査
2月～3月		研究科委員会で学位授与判定
3月下旬		学位記授与
3月	博士論文概要論文公刊	「人間科学研究科紀要」に概要論文を掲載

平成 29 年度

大阪大学人間科学部  
大阪大学大学院人間科学研究科

修学・学生生活関連ガイド

## 修学・学生生活等における諸事項

### 学生に対する通知・連絡について

学生に対する諸通知は原則としてKOAN（学務情報システム）の掲示板及び学内の掲示板によって行いますので、毎日掲示板を見るよう習慣づけてください。

#### (1) KOAN（学務情報システム）掲示板

「マイハンダイ」(<https://my.osaka-u.ac.jp>) KOANポータルサイトを呼び出し接続します。

#### (2) 学内掲示板

本館2階掲示板：授業実施関係、行事予定、その他

東館2階掲示板：各種案内掲示

国際交流室（本館2階）：留学生関係、海外留学・奨学金関係

学生支援室（本館2階）：就職・進学・インターンシップ関係

\*学系独自の掲示板もあります。（行動：3階、教育：4階、社会・人間：5階）

\*他学部・他研究科の授業科目等の通知については、当該学部・研究科の掲示によります。

なお、学生個人に対する通知や連絡は、掲示（KOAN掲示板を含む）によるものの他、郵送・携帯電話・Eメール等により行いますので、連絡を受けた場合は、その指示にしたがって速やかに対応または窓口に来てください。

### 学生証等について

学生証は本学の学生であることを証明するものであるだけでなく、証明書自動発行機、図書館（室）の利用、学内各窓口での提示等にも使用します。通学定期券発行控と共に所定のケースに収納し、汚損・破損・紛失しないように大切に取扱い、登校の際は必ず携帯するとともに、次の事項に留意してください。

- ① 学生証は修業年限内（学部生—4年、第3年次編入学生—2年、博士前期課程学生—2年、博士後期課程学生—3年）は有効です。修業年限を超えて在学する場合は教務係で再発行します。
- ② 通学定期乗車券発行控は毎年度当初に更新しますので、通学区間の定期券を購入する場合には教務係で受領してください。
- ③ 学生証及び通学定期乗車券発行控は他人に貸与、または譲渡してはいけません。
- ④ 学生証及び通学定期乗車券発行控の不正使用をしてはいけません。万が一、不正使用が発覚した場合には厳正に対処します。
- ⑤ 学生証は定期試験の際や、各種証明書等の申し込み、証明書自動発行機の利用、その他本学職員に請求された時は、必ず提示してください。
- ⑥ 学生証の記載内容に変更が生じた場合には、直ちに教務係に届け出てください。
- ⑦ 万が一、学生証を紛失、または汚損・破損・磁気不良により使用に支障が生じた場合には学生センターで再発行等の手続きを行ってください。通学定期乗車券発行控を紛失した場合は教務係に申し出てください。なお、紛失した学生証、通学定期乗車券発行控が見つかったときは、直ちに教務係に返付してください。

## 学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出について

学籍に関する変更及び海外渡航等に関する届け出は次のとおりです。各所定様式については教務係で配付します。なお、\*を付した届け出は、別の項に詳細を掲載しています。

提出先：教務係

提出書類等	提出等期限	備考
*休学願・復学願・退学願	異動希望日の2カ月前から1カ月以上前の間（厳守）	「指導教員所見（様式）」を併せて提出すること。
復学届	復学年月日の2カ月前から1カ月以上前の間（厳守）	
改正（改名）・転籍届	その都度（速やかに提出）	
本人、保護者の住所、電話番号等の変更	その都度（速やかにKOANで変更登録）	大学から重要な電話（メール）連絡・郵送等を行うことがありますので必ず登録を行うこと。
*海外活動届及び海外留学・研修届	渡航日の1カ月以上前	留学や調査研究等で海外に渡航する場合は必ず提出すること。
一時帰国届（留学生のみ）	帰国日の1週間以上前	留学生は、一時日本を離れるときは、短期・長期に関わらず提出してください。
*長期履修申請		大学院生のみ対象（申請条件あり）

## 休学、退学等の在学中の異動について

### （1）在学年限及び休学（可能）期間

- ① 大阪大学学部学則に基づき、学部の在学年限は、休学期間を除き、8年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で4年と定められています。
- ② 大阪大学大学院学則により、博士前期課程の在学年限は休学期間を除き4年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で2年と定められています。
- ③ 大阪大学大学院学則により、博士後期課程の在学年限は休学期間を除き5年と定められています。また、休学（可能）期間は通算で3年と定められています。

### （2）休学

休学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に休学願を提出し許可を得てください。

- ① 病気、その他やむを得ない理由で3ヶ月以上修学できない場合は、その学年の終わりまで休学をすることができます。なお、実際に休学した期間は、在学年数には算入されません。
- ② 人間科学部・人間科学研究科では、国内外での調査研究を理由とする休学は認めていません。
- ③ 未納の授業料がある場合には休学は認められません。
- ④ 休学期間中にその事由が消滅した場合、復学を願い出ることができます。なお、休学期間の満了により復学となる場合も「復学届」の提出をもってその意思を申し出る必要があります。

### (3) 退学

退学を希望する者は、次の点に留意のうえ所定の手続きにより、教務係を通じて学部長・研究科長に退学願を提出し許可を得てください。

- ① 未納の授業料がある場合には退学は認められません。
- ② 在学年限の満了により以降在籍できない場合において、「退学願」が期限までに提出されない場合には、在学年限満了日をもって身分喪失とします。

#### 長期履修制度について（大学院生のみ）

長期履修制度とは、大学院学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することができる制度です。

許可対象者及び長期履修可能年数は次のとおりです。長期履修を申請する場合の在学年限は、博士前期課程は4年、博士後期課程は5年を限度とし、学年の始めから開始となります。申請の可否は審査により決定します。長期履修制度の申請等に関することは、別途周知を行いますが、詳細は教務係に問い合わせてください。

#### <許可対象者>

下記事由により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することが認められた者。ただし、各課程最終学年の者を除きます。

- (1) 定まった職業を有する者
- (2) 出産・育児・介護・病気や障がいに伴う療養等を行う必要のある者

#### 証明書の交付等について

本学では、証明書自動発行機により、学割証・在学証明書・健康診断証明書・成績証明書・卒業（修了）見込証明書・卒業（修了）証明書（学内の内部進学者のみ）が発行されます。なお、発行の際には学生証が必要です。

#### ◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

キャンパス	設置場所	台数	利用時間（月～金曜日） 祝日、年末・年始を除く	
豊 中	全学教育推進機構管理・講義棟（A棟）	2階教務係前	1台	8：30～17：00
	豊中学生センター学生交流棟	2階ホール	2台	8：30～17：00
吹 田	医学部医学科共通棟	1階玄関	1台	8：30～17：00
	工学部管理棟U1M棟	1階教務係横	2台	9：00～17：00
	吹田学生センターICホール	1階	1台	8：30～17：00
箕 面	言語文化研究科・外国語学部研究・講義棟（A棟）	1階南側玄関	2台	8：30～19：00 (授業のない日は17：00まで)

### ◆証明書自動発行機で発行可能な証明書

証明書の種類	発行対象
<b>(学部・大学院共通)</b> 学割証（1日3枚、年間10枚まで） 在学証明書 健康診断証明書 <b>(学部)</b> 成績証明書 卒業見込証明書（最終年次の学生のみ） <b>(大学院)</b> 成績証明書 修了見込証明書 （博士前期課程最終年次の学生のみ）	在学する課程
<b>(学部)</b> 成績証明書 卒業証明書 <b>(大学院)</b> 成績証明書（博士前期（修士）） 修了証明書（博士前期（修士））	卒業（修了）した課程 本学学部を卒業し、引き続き本学の大学院に入学した者  本学研究科博士前期課程を修了し、引き続き博士後期課程に進学した者

\* 大学に英語氏名の登録をしている学生については、英語版の証明書も出力できます。

\* 上記以外の証明書は教務係窓口申請してください。証明書の種類（英文証明書、教職単位の修得に関する証明書等）や申請の時期などにより、交付までに時間を要する場合がありますので、余裕をもって申請してください。

### オフィス・アワーについて

人間科学部・人間科学研究科ではオフィス・アワーを実施しています。授業内容等に関する学生の質問等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す時間帯を設定し、その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問することができます。オフィス・アワーの具体的な時間帯等については、学生用掲示板及び人間科学研究科ホームページに公開されます。

人間科学研究科ホームページ オフィス・アワー

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/officehour.html>

### 卒業・修了後の進路について

卒業・修了年次の学生（博士後期課程にあつては単位修得退学者も対象）は、「進路・就職報告システム」で必ず進路情報・就職先の情報を登録しなければなりません。報告期限（その後の更新は可能）は、卒業論文、修士学位論文、博士学位論文の題目届提出期限の期日としています。

### 台風接近に伴う気象警報発令時における学内連絡バスの運行について

台風接近に伴い、「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか、またはこれらの市を含む地域」に暴風警報又は特別警報が発令された場合、学内連絡バスの運行については下記のとおりとします。

- 午前6時以前に警報が解除された場合 → 時刻表どおり運行

- 午前9時以前に警報が解除された場合 → 午前12時以降運行（午前運休）
- 午前9時に警報が解除されない場合 → 終日運休

## 学生の掲示等について

学生の掲示物は教務係で許可を得たうえで下記の事項を遵守のうえ、指定された掲示板に掲示してください。

- ・掲示には、掲示責任者氏名及び掲示日を記し、期限の切れた掲示は速やかに取り除いてください。
- ・原則として掲示期間は7日以内とします。
- ・掲示物の大きさは、A3の大きさまでとします。

立看板を掲示する場合は、その場所を管理する部局の許可が必要です。学内においてピラ、雑誌、新聞等を発行もしくは配布するときは、実物1部を教務係へ届出てください。

## 学生の団体結成について

学生が学部・研究科内で団体等を結成しようとするときは、所定の様式により、事前に教務係に届け出て承認を受ける必要があります。全学的な団体等の結成については、学生センターに届け出て承認を受けてください。許可された団体は、毎年5月末日までに届出の更新をしなければいけません。また届出事項が変更したときも同様の手続きが必要です。この時に更新が行われない場合は、当該団体は解散したものとみなされます。なお、団体の結成、更新において、次に該当する場合は許可されないことがあります。

- (1) 団体等の目的及び団体の構成員氏名が明らかでないとき
- (2) 団体等の結成が学内の秩序を乱す恐れがあるとき
- (3) その他学部長・研究科長が不相当と認めるとき

## 海外留学について

大阪大学では様々なプログラムによる海外留学を積極的に推進しています。

### ○大阪大学交換留学（大学間派遣）

大阪大学と授業料等の相互不徴収及び単位互換等を明記する学生交流協定を締結している海外の大学（以下「協定校」という。）において、本学の学部又は大学院の正規課程に在籍する学生が、本学に在籍したまま、協定校で概ね1年以内の1学期又は複数の学期の間、科目の履修又は研究指導等の教育・研究の機会を得ることができます。

募集要項等の詳細については、下記大阪大学ホームページを検索・参照してください。

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

### ○大阪大学交換留学（部局間派遣）

人間科学部と学生交流協定を締結している協定校における交換留学については、人間科学研究科国際交流室に問い合わせてください。

### ○短期語学研修プログラム

大阪大学では多様な海外研修プログラムを実施しています。大阪大学ホームページ、KOAN掲示板及び国際交流室前掲示板にてお知らせしています。

## 学生の海外渡航について

学生が、教育・研究上の目的で海外渡航する場合は、事前に指導教員・受け入れ教員及び家族等に渡航内容等を十分に説明し、指導教員・受け入れ教員の承認を得たうえで、所定の届出様式を教務係に提出する必要があります。教務係への提出期限は渡航日の1か月以上前とします。

(注1) 危険情報が出されていない地域への渡航であっても届出は必要です。

(注2) 大学院生で危険度2の地域に渡航を予定している場合は、原則、2か月前までに教務係に提出してください。

なお、学部学生（研究生等を含む。）が危険度2以上の地域に渡航すること、大学院学生（大学院研究生等を含む。）が危険度3以上の地域に渡航することは原則として認めません。

また、学部学生（研究生等を含む。）が危険度1の地域に渡航する場合、大学院学生（大学院研究生等を含む。）が危険度1または2の地域に渡航する場合には、本研究科の海外研究活動検討委員会で渡航の可否について審議します。審議の結果によっては渡航の見送り等を指示することもあります。

＜危険情報は外務省海外安全ホームページの危険情報に基づきます＞

### 提出書類

提出書類（所定の届出様式）は次のとおりです。危険度に応じて必要書類が異なります。「海外危険地域への渡航に関する人間科学研究科の取扱い方針」に従って作成提出してください。

- ① 海外活動届（指導教員の押印が必要）及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」
- ② 海外留学・研修届
  - ※上記①②は、危険度に関わらず（危険情報が出されていない場合であっても）必ず提出が必要です。
  - ※上記①別紙の作成にあたって、留学や学会出席の場合は留学先大学、参加学会の名称、開催日程等について、調査研究活動の場合は現地での調査内容や研究計画の詳細（現地での調査研究活動は人間科学研究科の研究倫理審査の承認を含む。）について、記入していること。
- ③ 指導教員あるいは受け入れ教員の署名押印のある理由書（任意の様式・指導教員の押印が必要）
  - ※上記③は、危険度1以上の地域に渡航する場合には必ず提出が必要です。危険情報が出されている地域への具体的な渡航理由や安全面における対応・対策等（渡航日程と訪問先、渡航目的、経費の出所、渡航地域の危険度に関する情報、安全確保の方法、感染症への対策など）を理由書として提出すること。

#### 学部学生（研究生等を含む。）

	「海外活動届」及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」	海外留学・研修届	理由書
危険情報なし	○	○	/
危険度 1	○	○	○
危険度 2	原則として渡航不可		
危険度 3			
危険度 4			

#### 大学院学生（研究生等を含む。）

	「海外活動届」及び別紙「渡航目的及び活動内容の詳細」	海外留学・研修届	理由書
危険情報なし	○	○	/
危険度 1	○	○	○
危険度 2	○	○	○
危険度 3	原則として渡航不可		
危険度 4			

※帰国後は教務係に帰国した旨の連絡をすること（方法は自由）

## 授業料

### 授業料の納入について

授業料は、前期（4月から9月まで）及び後期（10月から翌年3月）の2期に分けて、前期は5月末、後期は11月末までに年額の2分の1ずつを納入します。ただし、休学や退学に伴う授業料の月割免除は、前期は4月末日までに、後期は10月末日までに願い出ることにより、在籍（在学）月数の授業料納入をもって行われます。

授業料は、本学窓口での現金収納は行いません。次のどちらかの方法で納入してください。なお、原則は（1）の口座振替により納入してください。

- （1）学生本人名義の金融機関等口座からの口座振替（口座からの引き落とし）。
- （2）やむを得ず口座振替の手続きを行っていない者は、「振込依頼書」により金融機関等窓口で大学指定口座へ振り込み

注1）口座振替の手続き書類は、大学の入学手続きの際に送付・配付しています。

注2）口座振替日は毎年度別途掲示等が行われるとともに、KOANに登録されている学生本人住所宛に事前通知が行われます。

注3）口座振替の手続きを行っていない者には、KOANに登録されている学生本人住所宛に「振込依頼書」が送付されます。

注4）「振込依頼書」により振り込む場合の振り込み手数料は本人負担となります。

授業料の債権は、新たに入学する者は入学月の初日に、在学学生は前年度3月に確定します。休学や退学等の学生としての身分の異動を願い出る者は、必ず異動日の1カ月前（ただし、2カ月前から受付を行います）までに手続きを行ってください。この手続きが行われていない場合には、授業料の債権が発生し、当該授業料を納入しなければなりません。

授業料免除・徴収猶予の申請を行っていない者、または、申請したが授業料の全額免除が許可されずに指定された期限までに必要な授業料の納入を完了しなかった者については、次の措置が取られます。

- （1）大学から本人及び保護者等に督促が行われます。
- （2）督促してもなお、相当期間を経過しても授業料の納入が完了しないときは、除籍の対象者となります。

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/tuition\\_info](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/tuition_info)

### 授業料未納による除籍について

年度末の時点において、授業料の納入が完了していない者については、本学学部学則第32条及び本学大学院学則第33条に基づき、当該年度の3月31日付けで除籍を行います。

## 授業料未納を理由として除籍となった者の復籍手続きについて

授業料未納を理由として除籍となった者については、救済措置として次の要領により復籍の申請手続きを行うことができます。

- (1) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の4月中に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合には、4月1日に遡って復籍することができます。このことにより、在学期間は除籍前と通算することになり、修業年限の変更はありません。
- (2) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の5月～春学期終了までの間に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は夏学期開始日または10月1日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (3) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の夏学期開始日～9月までの間に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は10月1日または冬学期開始日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (4) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の10月～秋学期終了までの間に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は冬学期開始日または次年度の各学期開始日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (5) 授業料未納を理由として除籍となった者（前年度までの授業料の未納を理由として3月31日付けで除籍となった者）が、除籍年の冬学期開始日以降に未納の授業料を納入し、復籍を申請した場合は、単位修得の見込み状況により、受入れ可能な期日（原則は次年度の各学期開始日）から復籍を認めることができます。この場合の授業料は、復籍後に在籍する授業料から納入することになります。
- (6) 除籍処分を取り消しのみを求める申請は受け付けません。
- (7) 復籍の申請が可能な期間は、除籍日の翌月から通算して3年とします。ただし、本学学部学則第32条及び本学大学院学則第33条に基づき、授業料未納を理由として除籍となった者が復籍し、再び除籍となった場合には、この取扱いは適用されません。

## 授業料の免除・徴収猶予・分納について

修学援助の一環として、経済的理由により授業料の納入が困難であり、学力基準を満たす方を対象に、本人の申請に基づき選考のうえ、予算の範囲内で授業料の全額または半額の免除、収納猶予、及び授業料分納を認める制度があります。

### 《授業料免除等の申請対象者》

- ① 経済的理由によって納入が困難であり、学力基準を満たす方。
- ② 前期または後期の授業料の納入前6ヶ月以内に、出願者の主たる学資負担者が死亡または出願者本人もしくは出願者の主たる学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納入が困難であると認められる方。

### 《授業料収納猶予・授業料分納の申請対象者》

大阪大学ホームページを参照してください。

申請に関する情報は、大阪大学ホームページ等でご案内しています。KOAN掲示板でも通知が行われます。申請を希望する方はホームページ等を必ず確認し、定められた期日までに申請手続きを行うようにしてください。

### 【窓口及び問い合わせ先】

吹田学生センター（ICホール1階） 06（6879）7088・7089

大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/remission>

## 奨学金

### 日本学生支援機構第一種・第二種奨学金（外国人留学生を除く）について

日本学生支援機構「第一種・第二種」奨学金は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に貸与される制度です。貸与を受けた奨学金は返済の義務があり、必ず返済しなければなりません。また、条件を備えていても、推薦人数に限りがあるため必ずしも希望者全員が採用されるとは限りません。

奨学金の種類と貸与月額は次のとおりです。

（平成29年1月現在）

奨学金の種類	貸与月額	
大学「第一種」奨学金 （無利子）	自宅通学	30,000円、45,000円のいずれかを選択
	自宅外通学	30,000円、51,000円のいずれかを選択
大学「第二種」奨学金 （有利子）	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円の中から希望する金額を選択	
大学院「第一種」奨学金 （無利子）	博士前期課程	50,000円、88,000円のいずれかを選択
	博士後期課程	80,000円、122,000円のいずれかを選択
大学院「第二種」奨学金 （有利子）	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円の中から希望する金額を選択	

申請に関する情報は、大阪大学ホームページ等でご案内しています。KOAN掲示板でも通知が行われます。申請を希望する方はホームページ等を必ず確認し、定められた期日までに申請手続きを行うようにしてください。

#### 【窓口及び問い合わせ先】

豊中学生センター（豊中キャンパス・学生交流棟2階）

奨学金担当（gakusei-sien-en2@office.osaka-u.ac.jp）

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/jasso>

### 地方公共団体及び民間奨学団体奨学金（外国人留学生を除く）について

地方公共団体及び民間奨学団体奨学会による奨学金（以下、「各種奨学金」という。）は、学業、人物ともに優れ、かつ、健康であって、経済的理由により学資の支弁が困難と認められる方に給与もしくは貸与される制度です。

学生センターで取り扱っている各種奨学金には、「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」と「希望者が直接出願する奨学金」があります。「候補者を選考し大学から推薦する奨学金」につ

いては、推薦人数に限りがあり、またそれぞれの奨学会での推薦基準があるため、必ずしも申請者全員が推薦候補者になるとは限りません。

また、民間奨学団体等奨学会の奨学生に採用されると、在学中のみならず卒業後も民間奨学団体等との関係は続きます。大阪大学から推薦されたという自覚を持ち、向学心をさらに高め、交流会、面談、研修会への出席や、生活状況調書、成績表、奨学金受領書の提出など、奨学生としての義務を果たさなければなりません。これらの義務を怠った場合、辞退や採用取り消しとなる場合もありますので、十分に考慮の上、申請してください。

対象者は奨学金の種類により異なります。申請方法は次のとおりです。

《候補者を選考し大学から推薦する奨学金》

大学からの奨学生候補者は、申請登録者から選考します。申請に関する情報は、大阪大学ホームページ等でご案内しています。KOAN掲示板でも通知が行われます。申請を希望する方はホームページ等を必ず確認し、定められた期日までに申請手続きを行うようにしてください。

《希望者が直接出願する奨学金》

大学に募集案内があった場合、その都度KOAN掲示板にてお知らせします。地方公共団体奨学金については、本学に募集案内が来ない場合があるので、直接、出身地等の教育委員会等へ照会してください。

### 【窓口及び問い合わせ先】

吹田学生センター（ICホール1階） 電話：06（6879）7084

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

[http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/gov\\_n\\_private](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/tuition/scholar/gov_n_private)

## 外国人留学生奨学金について

民間奨学金は、その都度KOAN掲示板及び人間科学研究科国際交流室前掲示板にてお知らせします。

### 【窓口及び問い合わせ先】

人間科学研究科国際交流室

【人間科学研究科国際交流室サイト】 <http://oie.hus.osaka-u.ac.jp>

## 健康管理・学生相談

### 学生定期健康診断について

学生定期健康診断は、学校保健法及び大阪大学学生健康診断規程で受検が義務付けられている健康診断です。全学生が必ず受検しなければなりません。毎年4月の指定する期間に実施されますが、日時、場所等についてはKOAN掲示等でお知らせします。

なお、特に学部卒業年次・大学院修了年次の学生は、この学生定期健康診断を受検していない場合には、就職や進学の際に必要な健康診断書が発行されませんので注意してください。

### 保健センターの診療について

大阪大学保健センターは、豊中本室、吹田分室、箕面分室において、学内の保健管理、健康相談、疾病予防、救急措置、精神衛生相談等を主な業務として、学生・教職員の健康保持、健康増進を図っています。保健センターには、医師、看護師、臨床検査技師等が勤務し、診察や健康相談等を行っています。女性のカウンセラーや医師による女性専門の外来も開設しています。受付時間、診察・相談等の対応時間及び診療科ごとの週間診療予定表など、詳細は下記ホームページを確認してください。

大阪大学保健センター [http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/2\\_consul.html](http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/2_consul.html)

### 学生相談室について

大阪大学には、学生相談室が設置されています。本学の学生は誰でも利用でき、経験豊かなブロのカウンセラーに相談することができます。相談内容、相談者氏名は誰にも知られないよう秘密は厳守されます。学生相談室ではどんな相談でも受け付けますので、何か相談したいことがあれば、安心して相談してください。なお、相談を希望する場合は事前に予約が必要となります。詳細は下記ホームページを参照してください。

学生相談室 [http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/3\\_stu.html](http://www.healthcarecenter.osaka-u.ac.jp/3_stu.html)

### ハラスメント関連相談室について

大阪大学では、ハラスメントのない大学を目指し、その発生の防止や解決に取り組んでいます。各キャンパスには、全学のセクシュアル・ハラスメント相談室及びアカデミック・パワー等ハラスメント相談室がそれぞれ設置されており、各相談室では、専門の相談員（カウンセラー）が問題の解決にあたっています。また、人間科学研究科にもハラスメント相談室が設置されており、各相談員が相談に応じています。ハラスメントの被害に遭ったときや周囲の人が被害に遭って困っているときは、勇気を出して相談しましょう。なお、全学のハラスメント関連相談室での相談を希望する場合は、事前に電話予約を行ってください。詳細は下記ホームページを確認してください。

ハラスメント関連相談室 [http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/prevention\\_sh](http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/prevention_sh)  
人間科学研究科ハラスメント相談室 <http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/harassment.html>

## 保険・リスク管理

### 学生教育研究災害傷害保険（学研災）について

学生教育研究災害傷害保険（学研災「がっけんさい」）は、国内外における教育研究活動中に学生が被った「けが」に対して補償を提供するために設立された保険制度です。大阪大学では、全ての対象者がこの保険に加入することとしています。加入がまだの方は、すぐに加入の手続きをとってください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加、海外へ留学する場合などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

加入方法の詳細、保険金の内容、保険金の請求手続き等については、下記ホームページを参照してください。

#### 【窓 口】

豊中生協事務所（豊中キャンパス豊中福利会館4階）

吹田工学部生協事務所（吹田キャンパスC8棟 仮設店舗）

#### 【問い合わせ先】

大阪大学生活協同組合総務部（豊中福利会館4階） 06-6841-3326

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/general/insurance.html>

### 学生教育研究賠償責任保険（学研陪）について

学生教育研究賠償責任保険（学研陪「がっけんばい」）は、正課・学校行事中やインターンシップ・介護体験活動・教育実習・保育実習及びその往復中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりしたことによる法律上支払わなければならない損害賠償金を補償する保険です。「学研災」に先に加入していなければ、「学研陪」に加入することはできません。加入希望者は必ず「学研災」に加入していることを確認のうえ、大学生協の保険窓口で必要書類を受け取り、郵便局の窓口で保険料を払い込んでください。

注1）人間科学部の学部生は各自で加入する必要があります。なお、学外で行われる授業や実習への参加などは、この保険の加入が原則必要となります。

注2）人間科学研究科の大学院生については、「学研災」と同様に、人間科学研究科の公費負担により、全ての学生（研究生等正規生は除く）に対して、この保険の加入を行っていますので、新たに加入手続きを行う必要はありません。

## 留学生危機管理サービス（OSSMA）について

大阪大学では、学生が以下の対象に該当する海外渡航を行う場合には、留学生危機管理サービス（OSSMA）の加入を義務付けています。OSSMAは、海外渡航中に困りごとや相談したいことが発生した場合に、24時間365日、日本語で適切なサポートが受けられるサービスです。該当する海外渡航を計画する場合には、事前に人間科学研究科教務係窓口に申し出てください。手続きに必要な書類をお渡しします。詳細は下記ホームページを確認してください。

### 《対象となる海外渡航》

- ① 大学間及び部局間交換留学
- ② 大学が主催する短期派遣プログラム（語学研修、インターンシップ等）
- ③ 本学を通じて経済的支援（奨学金等）を受ける派遣

【大阪大学ホームページ／関連ページ】

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ossma/ossma>

## 抗体検査について

人間科学部・人間科学研究科では、多くの学部学生や大学院生が、保育所・幼稚園・小学校・中学校、さらには社会福祉施設や病院等の外部機関・外部施設において、実習や研究活動を行っています。このような現場に出かける際には「事前予防」に留意しながら、「病気を持ち込まない、持ち帰らない」こと、あるいは「病気の発生源にならないこと」が、学生自身及び現場の人々の健康や安全を守るためにも重要なことであり、リスク管理の観点からも強く求められています。また、人間科学研究科に来校する外部の者（心理相談者、実験協力者等）に対応する学生についても、同様の配慮が必要となります。

このことから、人間科学部・人間科学研究科の学生が、外部機関等において実習や研究活動を行う場合、または人間科学研究科に来校する外部の者に対応予定の場合には、抗体検査（風疹、麻疹、水痘、ムンプスの4種）を受けることになっており、人間科学部・人間科学研究科の該当学生を対象に、毎年5月と10月の年2回、保健センター（吹田分室）において抗体検査を実施しています。実施日及び申し込み期限（指導教員を通じて教務係へ申し込む）等についてはKOA N掲示板等でお知らせします。なお、抗体検査料は学生3割負担、大学7割負担となります。

## その他リスク管理について

教育研究活動、学生生活には、常にあらゆるリスクが内在しています。人間科学研究科・人間科学部では、安全対策やリスク管理のガイドブック「リスクのくすり」を作成し、学生に配付しています。必ず読むようにしてください。

## 学部・研究科内の施設等

### 学生による講義室等の使用について

授業または大学（学部）の行事に支障のない限り、学生は研究または集会のために、本研究科・学部所管の講義室を使用することができます。その場合、責任者は教務係に所定の使用願を使用日の1週間前までに提出し、許可を受けてください。

なお、講義室その他を使用する（した）場合は、特に次の事項について留意してください。

- (1) 研究会または集会終了後は、備品、器具類をもとの状態にもどし、授業等に差し支えないようにしておいてください。
- (2) 火気の処理及び消灯については、特に注意してください。
- (3) 講義室を使用する際にも、省エネルギー対策を効果的に推進するため、無駄な光熱費が発生しないよう努めてください。

### リフレッシュルームの利用について

本館2階、3階に学生や教職員の集いの場としてリフレッシュルームを設けています。リフレッシュルームには、学生が使用できるコピー機や飲料の自動販売機も設置しています。

### インターナショナルカフェの利用について

本館1階には、インターナショナルカフェを設けており、休憩や昼食時などの憩いの場としてだけでなく、情報交換、語学や様々な学術向上の場、外国人留学生を含む異文化交流の場として利用できるよう、学生や教職員に幅広く開放していますので、是非活用してください。

なお、インターナショナルカフェをイベント等で使用する場合は、教務係に所定の使用願を使用日の10日前までに提出し、許可を受けてください。

### ラーニング・コモンスの利用について

北館2階の図書室の西側スペースに、ラーニング・コモンスを設けています。ラーニング・コモンスは、「プレゼンテーションエリア」と「グループ学習エリア」に分かれており、基本的に、学生同士あるいは学生と教職員が「共に学ぶ」ための共有の学習スペースとして広く開放しています。なお、授業の一環として行うアクティブラーニングやグループワークにも積極的に開放しており、また、ワークショップ等の開催、学習に係るイベントの場としても提供されています。使用時間は平日の8時30分から20時です。

### 図書室の利用について

北館2階には、人間科学部図書室があります。人間科学部・人間科学研究科の学際的な性格を反映し、自然科学、社会科学、人文科学と多岐にわたる図書資料、定期刊行物等が収められています。全学の蔵書から資料を取り寄せるサービスも利用することができます。開室時間は平日の午前10時15分から午後5時です。

人間科学部図書室 <http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/huslibrary.html>

## 計算機室の利用について

本館1階の計算機室には、サイバーメディアセンターの分散端末（Windows8.1）を10台設置しています。授業の予習や復習、研究にこれらの情報端末を活用してください。開室時間は平日の午前8時30分から20時までです。なお、分散端末にトラブルが発生した場合はサイバーメディア室まで報告してください。

計算機室 [http://cmo.hus.osaka-u.ac.jp/computer\\_room.html](http://cmo.hus.osaka-u.ac.jp/computer_room.html)

## テニスコートの使用について

本学部のテニスコートの使用要領は次のとおりです。この要領を遵守して使用するようしてください。

1. コートはテニス専用として使用してください。
2. 使用者は、本学部の学生、本研究科の大学院生・教職員及び学部長が許可した者とします。
3. 使用時間は、月曜日から金曜日までは午前8時30分から19時までとします。なお、時間外の使用については、事前に申し込み許可を得てください。土曜日、日曜日、祝日の使用については、使用日の3日前までに申し込み許可を得てください。
4. 使用に際しては、使用心得を厳守してください。
5. 申し込みの受付等、使用に関しては教務係で取扱います。
6. 使用後の鍵は、速やかに必ず教務係（教務係窓口が閉まっている場合は教務係入口横の鍵箱）に返却してください。返却が遅れたり、返却されなかったりすると、他の使用者が使えなくなりますので留意してください。

## 夜間及び土・日・祝日の本研究科建物への入退館について

本研究科では、安全確保を主な目的として、入退館管理システムを導入しています。20時00分から翌日の7時00分までの夜間及び土・日・祝日等の終日は、建物1・2階の主な出入口及び本館1階の計算機室を電気錠により施錠するため、入館の際には専用カードが必要となります。なお、学部3・4年生、大学院生及び研究生で時間外に入館が必要な場合には、申出により専用カードを配付します。専用カードが必要な場合は教務係に申し出てください。

なお、卒業（修了）または退学により学籍を離れるときは、専用カードを必ず教務係に返却するようにしてください。

## 建物内の禁煙について

本研究科には喫煙場所はありません。喫煙は学内の指定する場所で行ってください。

## 人間科学研究科各室及び研究科附属未来共創センターの紹介

### サイバーメディア室

サイバーメディア室は、本館1階（M124）にあり、本研究科の教育・研究の基盤となるネットワークの維持・管理を担当しています。サイバーメディア室には、ネットワークやIT機器に関する専門の職員が常駐し、それらの活用やトラブルなどについて相談に応じています。さらに公式ホームページを通して、本研究科の研究内容などを常時情報発信しています。また、サイバーメディアセンター分散端末を設置する計算機室も管理しトラブル等にも対応しています。

開室時間 10:00～16:45（昼休み12:00～13:00）  
※土・日曜日、祝日、年末年始を除きます

サイバーメディア室ホームページ <http://cmo.hus.osaka-u.ac.jp>

### 国際交流室

国際交流室は、本館2階（M245）にオフィスを構え、留学を希望する学生や留学生の相談や支援を行っています。また、国際交流に関する様々な企画・イベントも開催しています。オフィスアワー（ご相談がある場合は事前に予約していただくことをお勧めします。）

火曜日12:00～16:00、木曜日12:00～16:00

※オフィスアワー以外の時間帯でも事前予約のうえ相談可

※祝日、年末年始を除きます

TEL（FAX） 06-6879-4038

E-mail oie-core@ (@は半角、@以下は hus.osaka-u.ac.jp)

国際交流室ホームページ <http://oie.hus.osaka-u.ac.jp>

### 学生支援室

学生支援室は、本館2階（M245）にオフィスを構え、学生の就職・進路支援やインターンシップの実施などを行っています。また、就職及び他大学大学院入試の情報を収集しており、関連図書の出借も行っていますので活用してください。さらに、学生生活上の諸問題の相談窓口として相談にも応じていますので気軽に利用してください。

開室時間 10:00～17:00  
※土・日曜日、祝日、年末年始を除きます

TEL（FAX） 06-6879-4043

E-mail student@ (@は半角、@以下は hus.osaka-u.ac.jp)

学生支援室Facebook <http://sso.hus.osaka-u.ac.jp>

## 教育改革推進室

教育改革推進室では、本研究科・学部学生の教育研究活動をさらに活発にするための取り組みや支援等を行っています。平成28年度は以下の支援等を行いました。

### 《大学院生対象》

- ・論文等の外国語校正支援
- ・大学院学生国際学会海外派遣支援金
- ・大学院学生研究集会開催支援金

### 《学部生・大学院生対象》

- ・英語力向上セミナー TOEIC®対策講座
- ・学部生・大学院生等による国際研究交流プロジェクト

このような支援等は研究科ホームページ等を通じてお知らせしています。関心のある方はホームページを参照してください。

教育改革推進室ホームページ

[http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/study\\_support.html](http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/students/study_support.html)

## 未来共創センター

人間科学研究科附属未来共創センターは、本研究科教員の個別の学問領域における研究の機能強化だけでなく、異なる研究領域の研究者との接触や協働を通して、新たな融合的学問領域の展開と、国内外の現場に寄り添った実践的な教育研究活動の実現を目指しています。

学部学生や大学院生は、本センターが企画・運営する公開講座、セミナーやサイエンス・カフェ、さらに学術図書企画・出版、国内外での課外活動とインターンシップ等の事業に参加することで、研究成果の一般社会への還元方法やコミュニケーション力・対話力の向上、及びプロジェクトの企画・運営能力などの実践的能力を身に着けることが期待できます。

学生が主体的に関わるこれらの実践教育型の諸活動については、その学修成果等に対して単位を認定する仕組みも用意しています。

未来共創センターホームページ

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp/ja/mirai-kyoso>

## 就 職

### 就職活動について

就職を希望する者は、あらかじめ志望する職種等を各自研究し、指導教員、学生支援室講師と相談して就職方針を決めてください。また、下記の事項に留意して活動してください。詳細は、大阪大学学生・キャリア支援課及びキャリア支援ユニット、もしくは人間科学研究科学生支援室におたずねください。

- (1) 就職関係の情報は、以下のホームページに掲載されていますので活用してください。
  - ① 大阪大学就職・進学情報 <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career>
  - ② 大阪大学就職活動支援サイト <https://cs-web.osaka-u.ac.jp/recruit/>
  - ③ 人間科学研究科学生支援室サイト <http://sso.hus.osaka-u.ac.jp>
- (2) 就職関係の情報や通知連絡は、すべてホームページ、掲示、KOAN掲示板にて行われますので、常時確認するようにしてください。
- (3) 就職活動の開始時期に合わせて、「大阪大学就職ガイドブック」を配布します。4月の履修ガイダンス、または人間科学研究科教務係で配布を行っていますので受け取るようにしてください。
- (4) 進路・就職先が決定した場合、KOANのTOP画面から「進路・就職報告システム」に入り、必ず進路情報・就職先情報の登録を行ってください。
- (5) 会社案内、就職ガイド、就職関連図書等は、人間科学研究科学生支援室及び大阪大学学生センターに置いていますので、就職活動に大いに利用してください。
- (6) 人間科学部（人間科学研究科）内で開催される就職ガイダンス等は積極的に活用・参加してください。

### 公務員について

公務員を志望する者には、通例、次のような各種資格試験があります。ただし、人間科学部（人間科学研究科）に通知されるものはごく一部ですので、志望者は各自早めに、国、各都道府県、各市区町村等のホームページなどを確認するとともに、それぞれの担当窓口にお問い合わせるようにしてください。

- (1) 国家公務員  
国家公務員採用試験は、「総合職試験」、「一般職試験」、「専門職試験」に区分されています。さらに「総合職試験」は、「院卒者試験」と「大学程度試験」の二種類に分かれています。また、例年、大学キャンパス内において、人事院近畿事務局による試験説明会も開催されますので、志望者は参加することが望めます。

国家公務員採用試験情報 <http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>

## (2) 家庭裁判所調査官補

家庭裁判所調査官補として採用されるには、裁判所職員採用総合職試験人間科学区分（院卒者試験・大学程度試験）に合格する必要があります。受験申込受付は、例年、4月上旬です。

## (3) 地方公務員上級職

都道府県、市区町村などの地方公共団体では、それぞれ採用試験が行われています。詳細等については、事前に、各団体のホームページを確認するとともに、担当窓口にお問い合わせるようにしてください。

## (4) 教育公務員

各府県及び各政令指定都市の教育委員会では、高等学校、中学校の教員採用試験が毎年7月頃に実施されています。詳細等については、事前に、各教育委員会のホームページを確認するとともに、担当窓口にお問い合わせるようにしてください。

## (5) 児童相談所専門職員（児童福祉司）

児童福祉司は、児童の保護その他児童の福祉に関する事項について相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う等、児童の福祉増進に努めることを職務としています。児童福祉司になるには、在学中の心理学、教育学もしくは社会学に関連のある授業科目の単位を修得しておく必要があります。なお、採用試験は、各都道府県及び各政令指定都市において実施されます。詳細等については、事前に、各都道府県及び各政令指定都市のホームページを確認するとともに、児童福祉主管課にお問い合わせるようにしてください。

## (6) 福祉関係職

社会福祉主事、知的障害者福祉司、身体障害者福祉司、児童福祉施設・知的障害者援護施設職員等があります。なお、採用試験は、各都道府県及び各政令指定都市において実施されます。詳細等については、事前に、各都道府県及び各政令指定都市のホームページを確認するとともに、担当主管課にお問い合わせるようにしてください。

## (7) 社会教育主事補

ごく少数の自治体が、大学卒業者に対して特別に社会教育主事補の選考を行うことがあります。

## 資格・免許

### 教育職員免許状

大学を除くすべての国公立学校の教育職員（常勤、非常勤を問いません）になるためには、それぞれ相当の教育職員免許状を有する必要があります。本学部（研究科）で取得できる免許状は下表のとおりです。

例年4月初旬に教職課程ガイダンスが行われます。教育職員免許状取得希望者は参加してください。

教育職員免許状の取得については、『大阪大学【教職課程ブックレット】①《教職課程への招待》』を参照してください。このブックレットは、上記の教職課程ガイダンスで配布されます。教務係でも入手可能です。

なお、教職課程及び教育職員免許状に関するお知らせは、すべてKOAN掲示板により行われます。

課 程	免許状の種類	免許状の教科
学 部（人間科学部）	中学校教諭一種免許状	社会
	高等学校教諭一種免許状	地理歴史、公民
大学院（人間科学研究科）	中学校教諭専修免許状	社会
	高等学校教諭専修免許状	地理歴史、公民

大阪大学ホームページ／教職課程

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/career/teacher/teacher-certification-course>

### 社会教育主事（任用資格）

社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的、技術的な助言と指導を与えることができる資格です。社会教育主事となるには、大学に2年以上在学して、62単位以上を修得し、かつ大学において文部省令（昭和26年6月21日文部省令第12号）で定める社会教育に関する科目の単位を修得しなければなりません。ただし、社会教育主事の職に就くには、1年以上の社会教育主事補としての経験が必要となります。前記の社会教育に関する科目の単位の修得とは、次表に掲げる科目の単位を修得しなければなりません。

平成29年度学部入学者適用（第3年次編入学生は除く）

指定科目	単位	学部における認定科目及び単位	
生涯学習概論	4	生涯教育学（2単位）	共生教育学（2単位）
社会教育計画	4	教育社会学（2単位）	教育動態学（2単位）
		コミュニティ教育学（2単位）	教育文化学（2単位）
		教育制度学（2単位）	
社会教育演習、社会教育実習又は社会教育課題研究のうち1以上の科目	4	生涯教育学演習Ⅰ（2単位）	生涯教育学演習（2単位）
		教育環境学実験実習Ⅰ（2単位）	教育環境学実験実習Ⅱ（2単位）
		教育社会学演習Ⅰ（2単位）	教育文化学演習Ⅰ（2単位）

社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	2	ジェンダーと教育(2単位)	教育と社会(2単位)
		コミュニティ教育学(2単位)	
社会教育特講Ⅱ (社会教育活動・事業・施設)	4	教育制度学(2単位)	教育人間学Ⅰ(2単位)
		教育心理学Ⅰ(2単位)	臨床心理学Ⅰ(2単位)
		教育工学Ⅰ(2単位)	学校経営学Ⅰ(2単位)
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)	6	教育学概論(2単位)	現代日本の教育問題(2単位)
		教育人間学Ⅱ(2単位)	外国教育史(2単位)
		教育工学Ⅱ(2単位)	教育心理学Ⅱ(2単位)
		臨床心理学Ⅱ(2単位)	日本教育史(2単位)
		人権教育論(2単位)	
		市民活動論(2単位)	ボランティア社会論(2単位)

## 認定心理士

「公益社団法人日本心理学会認定心理士(以下、認定心理士と呼びます)」は、公益社団法人日本心理学会がその資格取得希望者に対して、“この人物は心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術とを正規の課程において修得している”ということを確認する資格であり、現在において、同学会が心理学に関して認定している唯一の資格です。

資格取得の基礎条件は、四年制大学を卒業し学士の学位を取得もしくは大学院修士課程を修了し修士の学位を取得していることに加え、認定資格細則が指定する心理学関係の所定の単位を修得していることなどです。その所定の単位は、心理学概論や心理学研究法、心理学実験実習等の基礎科目、および知覚心理学や教育心理学、社会心理学等の選択科目を中心に構成され、総単位は36単位以上が求められます。

詳細については、公益社団法人日本心理学会のホームページに掲載されている「資格申請の手引き」を参照してください。

公益社団法人日本心理学会のホームページ <http://www.psych.or.jp>

## 臨床心理士(一種)

臨床心理士は、大学院教育で得られる高度な心理学的知識と技能を用いて、臨床心理査定(心理テスト)、臨床心理面接(心理療法・心理カウンセリング)、臨床心理学的地域援助およびそれらの研究調査等の業務を行います。

臨床心理士の資格は、文部科学省の認可を受けた「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」によって認定されます。資格審査は、書類審査、筆記試験、および口述審査により、原則として年1回行われます。平成13年度以降の入学者は、本研究科臨床心理学研究分野の博士前期課程を修了後、臨床心理士の資格試験を受けることが出来ます。

## 【修得が必要な授業科目と単位について】

「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」が指定している必修科目および選択必修科目は、次のとおりです。必修科目16単位以上に加え、選択必修科目についてはA～E群すべてにつき各2単位以上、合計26単位以上を修得しなければならない。

「日本臨床心理士資格認定協会」が指定する科目		左記に該当する本研究科の開講科目
必修科目	臨床心理学特論（4単位）	臨床心理学特講Ⅰ（2単位） 臨床心理学特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理面接特論（4単位）	臨床心理面接特講Ⅰ（2単位） 臨床心理面接特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理査定演習（4単位）	臨床心理査定演習Ⅰ（2単位） 臨床心理査定演習Ⅱ（2単位）
	臨床心理基礎実習（2単位）	臨床心理基礎実習Ⅰ（2単位） 臨床心理基礎実習Ⅱ（2単位）
	臨床心理実習（2単位）	臨床心理実習Ⅰ（2単位） 臨床心理実習Ⅱ（2単位）
選択必修科目A群	心理学研究法特論	—
	心理統計法特論	行動統計科学特講Ⅰ（2単位） 行動統計科学特講Ⅱ（2単位）
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特講（2単位）
選択必修科目B群	人格心理学特論	人格心理学特講（2単位）
	発達心理学特論	比較発達心理学特講Ⅱ（2単位）
	学習心理学特論	—
	認知心理学特論	応用認知心理学特講Ⅰ（2単位） 応用認知心理学特講Ⅱ（2単位）
	比較行動学特論	—
選択必修科目C群	教育心理学特論	教育心理学特講（2単位）
	社会心理学特論	社会心理学特講Ⅰ（2単位） 社会心理学特講Ⅱ（2単位）
	人間関係学特論	—
	社会病理学特論	—
	家族心理学特論	—
	犯罪心理学特論	—
選択必修科目D群	臨床心理関連行政論	—
	精神医学特論	—
	心身医学特論	—
	神経生理学特論	—
	老年心理学特論	臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ（2単位） 臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ（2単位）
	障害者（児）心理学特論	障がい児（者）心理学特講Ⅰ（2単位） 障がい児（者）心理学特講Ⅱ（2単位）
	精神薬理学特論	—
選択必修科目E群	投映法特論	—
	心理療法特論	心理療法特講（2単位）
	学校臨床心理学特論	—
	グループ・アプローチ特論	—
	臨床心理地域援助特論	—

具体的にどのような授業科目や臨床経験が規定に適合するのか知りたい場合は、「公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会」監修の「臨床心理士になるために（誠信書房）」を参照してください。

公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 <http://fjcbcp.or.jp>

## 社会調査士・専門社会調査士

社会調査士・専門社会調査士は、社会調査に関する教育制度を整備し、人材育成を組織化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかるために、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の3学会は、2008年度に「一般社団法人社会調査協会」を設立し、社会調査士と専門社会調査士の認定を始めました。

社会調査士は、学部卒業レベルの資格であり、専門社会調査士は、大学院修士課程修了レベルの資格です。

社会調査士を取得するためには、大阪大学人間科学部・人間科学研究科の認定科目を「一般社団法人社会調査協会」の定めた規定にあわせて修得し、卒業と同時に資格申請をしなければなりません。資格取得希望者は、必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページに公開されている大阪大学人間科学部の各年度の認定科目一覧を参照してください。

専門社会調査士を取得するためには、以下の条件を満たすことが必要とされています。

- 1) 社会調査士の資格を有すること
- 2) 所定の科目の単位を修得すること
- 3) 社会調査結果を用いた修士論文を執筆すること

専門社会調査士についても、大阪大学人間科学研究科の認定科目は修得年度によって異なります。必ず「一般社団法人社会調査協会」のホームページを確認してください。

一般社団法人社会調査協会のホームページ <http://jasr.or.jp>

# 人間科学研究科・人間科学部教員一覧

大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部教員等一覧（平成29年4月1日時点）

（兼）は本研究科内兼任を示す。

〔兼〕は他部局教員等の本研究科兼任を示す。

人間科学研究科長・人間科学部長 教授 栗本 英世

人間科学専攻			
行動学系	人間行動学講座		
	基礎心理学	教授	赤井 誠生
		教授	入戸野 宏
		教授	森川 和則
		助教	富田 瑛智
	応用認知心理学	教授	篠原 一光
		助教	紀ノ定 保礼
	社会心理学	教授	釘原 直樹
		准教授	綿村 英一郎
		助教	寺口 司
	臨床死生学・老年行動学	教授	佐藤 眞一
		准教授	権藤 恭之
		助教	豊島 彩
	環境行動学	教授	三好 恵真子
		准教授	青野 正二
		准教授	小林 清治
	安全行動学	教授	臼井 伸之介
		助教	森泉 慎吾
	行動生態学講座		
	比較発達心理学	教授	金澤 忠博
助教		清水 真由子	
行動生理学	准教授	八十島 安伸	
	助教	篠原 恵介	
行動統計科学	教授	足立 浩平	
生物人類学	准教授	中野 良彦	
	助教	後藤 遼佑	
比較行動学	（兼）教授	中道 正之	
	（兼）講師	山田 一憲	
行動学系共通	助教	太子 のぞみ	
社会学・人間学系	社会環境学講座		
	社会学理論	教授	川端 亮
	現代社会学	（兼）教授	稲場 圭信
		准教授	高谷 幸
	経験社会学	（兼）教授	川端 亮
社会データ科学	教授	吉川 徹	

社会学・人間学系	コミュニケーション社会学	教 授	牟田 和恵	
		准 教 授	辻 大介	
	文化社会学	教 授	Scott North	
		教 授	山中 浩司	
	比較社会学	〔兼〕 教 授	石川 真由美(グローバル・リニシアティブ・センター)	
	福祉社会論	教 授	斉藤 弥生	
		講 師	遠藤 知子	
		客員准教授	水谷 綾	
	社会環境学講座共通	助 教	鈴木 彩加	
		助 教	樋口 麻里	
	<b>基礎人間科学講座</b>			
	科学哲学	教 授	中山 康雄	
	現代思想	教 授	村上 靖彦	
		(兼) 教 授	檜垣 立哉	
比較文明学	教 授	Wolfgang Schwentker		
	(兼) 准 教 授	鈴木 広和		
人類学	(兼) 教 授	栗本 英世		
	教 授	中川 敏		
	教 授	Zgusta Richard		
	教 授	福岡 まどか		
科学技術と文化	教 授	白川 千尋		
	〔兼〕 教 授	池田 光穂 (COデザインセンター)		
	准 教 授	森田 敦郎		
	特任准教授	JENSEN CASPER BRUUN		
〔兼〕 准 教 授	大村 敬一 (言語文化研究科)			
<b>臨床教育学講座</b>				
教育人間学	教 授	藤川 信夫		
	准 教 授	岡部 美香		
教育工学	教 授	前迫 孝憲		
	〔兼〕 教 授	齋藤 貴浩 (経営企画オフィス)		
教育心理学	准 教 授	西森 年寿		
	教 授	藤岡 淳子		
	准 教 授	野坂 祐子		
教育コミュニケーション学	〔兼〕 特 任 講 師	上原 秀子 (ハラスメント相談室)		
	教 授	三宮 真智子		
臨床心理学 (臨床心理士養成コース)	助 教	山口 洋介		
	教 授	井村 修		
	教 授	老松 克博		
	(兼) 教 授	藤岡 淳子		
	准 教 授	佐々木 淳		
	准 教 授	野村 晴夫		
	〔兼〕 准 教 授	石金 直美 (保健センター)		
	〔兼〕 准 教 授	平井 啓 (経営企画オフィス)		
	助 教	原田 真之介		
〔兼〕 助 教	竹中 菜苗 (保健センター)			
教育学系	<b>臨床教育学講座</b>			
	教育人間学	教 授	藤川 信夫	
	教育工学	准 教 授	岡部 美香	
		〔兼〕 教 授	前迫 孝憲	
	教育心理学	〔兼〕 教 授	齋藤 貴浩 (経営企画オフィス)	
		准 教 授	西森 年寿	
		教 授	藤岡 淳子	
	教育コミュニケーション学	准 教 授	野坂 祐子	
		〔兼〕 特 任 講 師	上原 秀子 (ハラスメント相談室)	
	臨床心理学 (臨床心理士養成コース)	教 授	三宮 真智子	
助 教		山口 洋介		
教 授		井村 修		
教 授		老松 克博		
(兼) 教 授		藤岡 淳子		
准 教 授		佐々木 淳		
准 教 授		野村 晴夫		
〔兼〕 准 教 授		石金 直美 (保健センター)		
〔兼〕 准 教 授		平井 啓 (経営企画オフィス)		
助 教	原田 真之介			
〔兼〕 助 教	竹中 菜苗 (保健センター)			

教育学系	教育環境学講座		
	教育社会学	教授	近藤 博之
		准教授	中澤 渉
	教育制度学	教授	小野田 正利
		准教授	園山 大祐
	生涯教育学	教授	木村 涼子
		(兼) 教授	山本 ベバリー・アン
		〔兼〕 教授	有川 友子 (国際教育交流センター)
		(兼) 准教授	岡田 千あき
	教育文化学	助教	藤根 雅之
(兼) 教授		志水 宏吉	
准教授		高田 一宏	
教育学系共通	助教	中村 瑛仁	
共生学系	未来共生学講座		
	共生の人間学	教授	管生 聖子
		(兼) 教授	檜垣 立哉
	共生社会論	教授	藤川 信夫
		教授	稲場 圭信
		教授	志水 宏吉
	共生行動論	教授	千葉 泉
		教授	渥美 公秀
		〔兼〕 教授	近藤 佐知彦 (国際教育交流センター)
	共生教育論	(兼) 准教授	権藤 恭之
		教授	山本 ベバリー・アン
		(兼) 准教授	Don Bysouth
	グローバル共生学講座		
	国際協力学	教授	澤村 信英
		(兼) 教授	白川 千尋
	多文化共生学	教授	藤目 ゆき
		〔兼〕 教授	宮原 暁 (グローバルイニシアティブ・センター)
		〔兼〕 講師	島藺 洋介 (グローバルイニシアティブ・センター)
	地域創生論	教授	大谷 順子
		教授	河森 正人
(兼) 准教授		住村 欣範 (グローバルイニシアティブ・センター)	
コンフリクトと共生	教授	栗本 英世	
	(兼) 講師	山田 一憲	
共生学系共通	助教	木村 友美	
	助教	Mohacsi Gergely	

附属未来共創センター		
	(兼) 施設長	中道 正之
	教授	中道 正之
	准教授	岡田 千あき
	准教授	鈴木 広和
	准教授	Don Bysouth
	講師	孫 美幸
国際交流室	(兼) 室長	Scott North
	講師	安元 佐織
学生支援室	(兼) 室長	吉川 徹
	講師	前馬 優策
サイバーメディア室	(兼) 室長	前迫 孝憲
	助教	宮本 友介
	助教	ZAORSKI Spence
研究推進室	(兼) 室長	臼井 伸之介
教育改革推進室	(兼) 室長	木村 涼子
附属比較行動実験施設		
	(兼) 施設長	八十島 安伸
	講師	山田 一憲
心理教育相談室	(兼) 室長	老松 克博
図書室	(兼) 室長	山中 浩司
評価資料室	(兼) 室長	村上 靖彦
	助教	小林 卓也
安全衛生推進室	(兼) 室長	中野 良彦
人間科学コース（学部英語コース）	特任講師	Lam LaiMing
	特任助教	Kim Viktoriya
	特任助教	Streich Philip Alan
	特任助教	CAVALIERE PAOLA

Web上では、掲載を省略させていただきます。  
学生の皆様は、配布している冊子版にてご確認ください。

時間割表やシラバスは、大阪大学大学院人間科学研究科・人間科学部  
ホームページ／在学生の情報へ

<http://www.hus.osaka-u.ac.jp>

阪大(はんだい) 人科(じんか)



大阪大学大学院人間科学研究科  
大阪大学人間科学部

---

〒565-0871 吹田市山田丘 1-2 電話 06(6877)5111(代表)

